

O&O software

O&O RegEditor

目次

1 はじめに 4

2 最初の手順 6

2.1 システム要件 6

2.2 クイックスタート 7

2.3 画面の見方 9

3 基本事項 12

3.1 レジストリの構造 12

3.2 値の種類 14

4 キーと値 17

4.1 キーの作成 17

4.2 値の作成 19

4.3 値の編集 21

4.4 名前変更と削除 25

4.5 コピーと移動 26

5 ナビゲーション 27

5.1 レジストリ内の移動 27

5.2 お気に入り 29

6 検索 32

6.1 データの検索 32

6.2 正規表現 34

6.3 検索結果 36

7 インポートとエクスポート 38

7.1 エクスポート 38

7.2 インポート 40

8 アクセス許可とセキュリティ 42

8.1 アクセス許可の管理 42

8.2 セキュリティの詳細設定 44

9 フォルダーの右クリックメニューにコマンドを追加する 46

10 設定 48

10.1 外観 48
10.2 表示言語 50
10.3 設定リファレンス 52
11 用語集 54
12 トラブルシューティング 56
13 よくある質問 58
14 サポートと O&O の関連情報 61

はじめに

O&O RegEditor は、O&O Software が提供する Windows 用の無料レジストリエディターです。本書では、レジストリの参照、キーや値の作成と編集、検索、`.reg` ファイルのインポート・エクスポート、アクセス許可の管理を説明します。製品の表示言語は英語とドイツ語です。本書では画面で見つけられるよう、メニューやボタンを英語名で示します。

Windows やアプリケーション、ドライバー、サービスが設定を保存するレジストリを操作できます。
Windows 標準のレジストリエディターと同様の画面構成に加えて、結果一覧付きの拡張検索、お気に入り、アドレスバーからの移動、ダークモード、高 DPI 表示に対応しています。

> **レジストリの取り扱いに注意してください**
>
> 誤った変更でシステム全体に深刻な問題が生じ、Windows の再インストールが必要になる場合があります。作業前に、たとえば O&O DiskImage でシステムイメージを作成して重要なデータをバックアップし、編集予定のキーもエクスポートしてください。O&O Software は、不適切な使用で生じた問題を解決できることを保証しません。O&O RegEditor はご自身の責任で使用してください。

主な機能

- **レジストリの参照：** キーツリーと値一覧で参照したり、アドレスバーにパスを指定して移動したりできます。
- **キーや値の作成、編集、名前変更、削除：** Windows がサポートする各データ型を扱えます。
- **数値の入力：** 数値エディターで 16 進数、10 進数、2 進数を選べます。
- **検索：** 大文字と小文字の区別、単語全体の一致、正規表現を指定し、キー名、値名、値のデータを検索できます。該当する結果は順次表示されます。
- **検索結果の保存：** `.reg` ファイルまたはタブ区切りテキストとして保存し、後で確認できます。
- **インポートとエクスポート：** Windows 互換の `.reg` ファイルを読み書きできます。
- **お気に入り：** よく使うキーや登録した場所に直接移動できます。
- **アクセス許可：** キーのアクセス許可や詳細なセキュリティ設定を管理できます。
- **表示と操作のカスタマイズ：** ダークモード、高 DPI 対応のアイコン、キーボード操作、表示言語の選択に対応します。

本書の構成

まず「**はじめての操作**」で画面に慣れ、最初の変更を試してください。「**基本概念**」ではレジストリの構造と値の種類を説明します。

操作別の章は「**キーと値**」「**移動**」「**検索**」「**インポートとエクスポート**」「**アクセス許可とセキュリティ**」です。続いて一連の操作例と**設定**を説明します。用語集、トラブルシューティング、よくある質問、サポートとO&O の関連情報も参照してください。

システム要件

O&O RegEditor の動作環境は次のとおりです。

項目	詳細
OS	Windows 11、Windows 10、および対応する Windows Server 各エディション。Windows 7 以降にも対応します。
アーキテクチャ	64 ビット（x64）および ARM64。
ダークモード	すべての機能を使用するには Windows 10 バージョン 1809 以降が必要です。それ以前の環境ではライトテーマになります。
ディスプレイ	解像度は任意です。高 DPI に対応し、高解像度ディスプレイでも鮮明に表示します。
入力	キーボードとマウス。大半の編集はキーボードだけでも行えます。
権限	`HKEY_LOCAL_MACHINE` の一部など、保護された領域を変更するには管理者権限が必要です。

導入方法

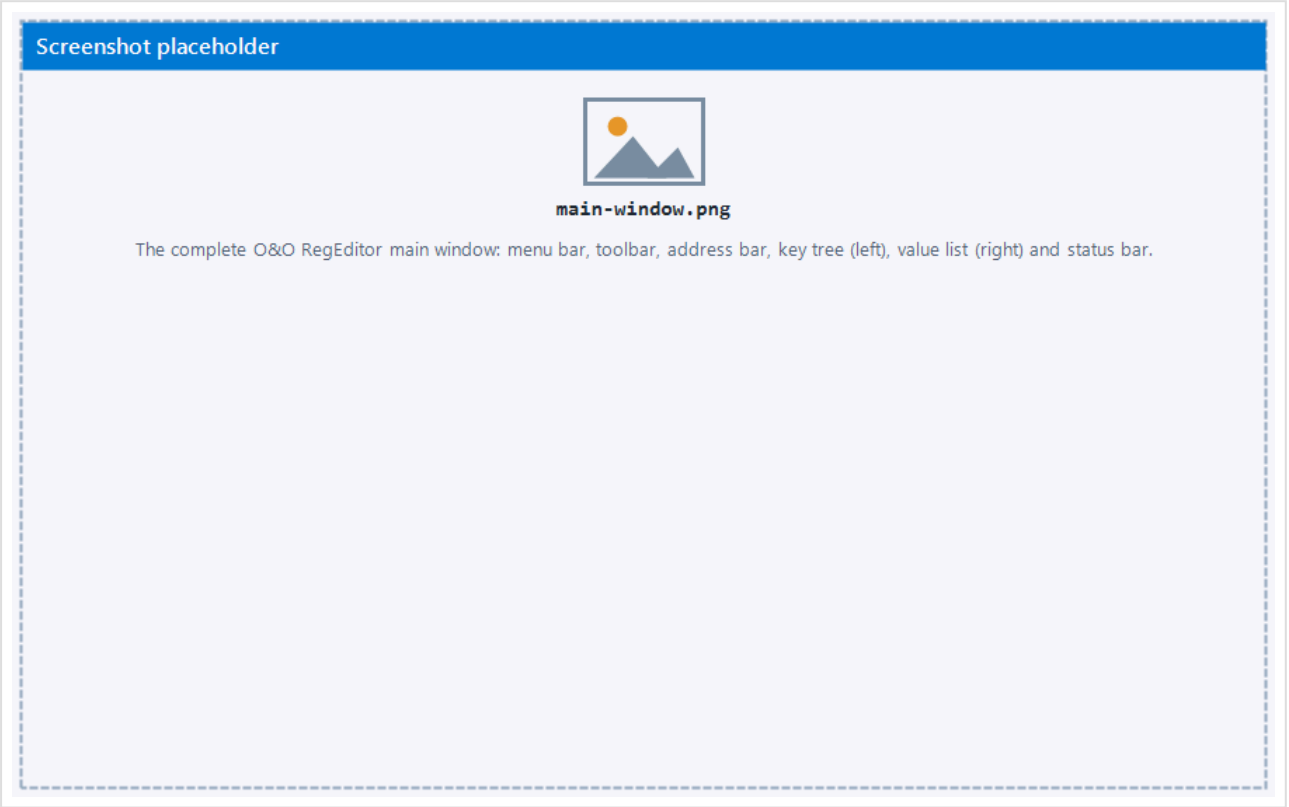
O&O RegEditor は単一の実行ファイルとして配布されます。英語とドイツ語の画面リソースを内蔵し、起動時に自動展開するため、言語パックを別途インストールする必要はありません。

O&O BlueCon などの Windows プレインストール環境（Windows PE）でも実行できます。Windows PE では設定はメモリにのみ保持され、ディスクには保存されません。

> **ポータブル運用**
>
> 実行ファイルと同じフォルダーに `OORegEditor.cfg` という構成ファイルがあれば、ユーザー別の構成ファイルよりも優先されます。詳しくは設定リファレンスを参照してください。

クイックスタート

O&O RegEditor で初めて値を変更するときは、次の手順で進めてください。



図：左側にキーツリー、右側に値の一覧が表示されます。

始める前に

レジストリの変更は、Windows やインストール済みプログラムの動作に影響します。重要な設定を編集する前に、次の準備をしてください。

1. 現在のデータをバックアップします。
2. 後で復元できるように、変更するキーをエクスポートします。エクスポートを参照してください。

最初の変更

1. **O&O RegEditor** を開きます。
2. 左側のツリーでルートキー（例：`HKEY_CURRENT_USER`）を展開し、目的のキーに移動します。**アドレスバー**にパスを入力するか貼り付けて Enter を押しても移動できます。

3. キーを選ぶと、右側にその値が表示されます。
4. 変更する値をダブルクリックします。値を選んで Enter を押してもエディターが開きます。
5. 新しいデータを入力し、**OK** で確定します。
6. サブキーを追加するには、キーを右クリックして **New key** を選びます。値を追加する場合は **New value** からデータ型を選びます。

変更は直ちにレジストリに書き込まれます。

編集に役立つ習慣

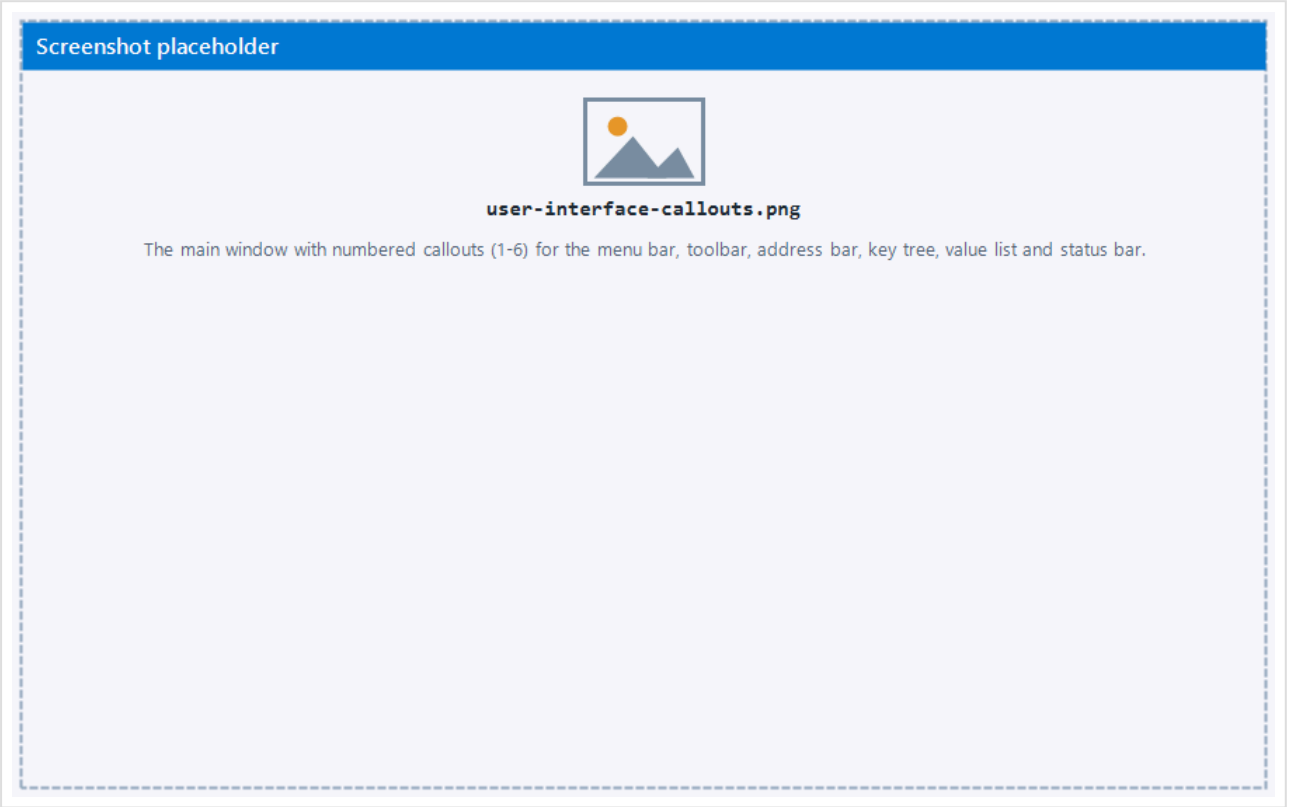
操作	利点
変更前にエクスポートする	問題が起きたときに元のデータを再インポートできます。
アドレスバーを使う	わかっているパスに直接移動できます。最近使ったパスも選択できます。
よく使うキーをお気に入りに追加する	1 回の操作でそのキーに戻れます。
長い一覧では検索を使う	対象のキーとその配下にあるキー名、値名、データをまとめて探せます。

次に読む項目

- 各部の役割は画面の見方で説明しています。
- キー、値、ルートキーの関係はレジストリの構造を参照してください。
- 各型の用途と入力方法は値の種類を参照してください。

画面の見方

メインウィンドウの各部には、次の役割があります。



図：O&O RegEditor のメインウィンドウ。

各部の役割

表示領域	用途
メニューバー	File、Edit、View、Favorites、Help の各メニューからコマンドを選びます。
ツールバー	検索など、よく使う操作のボタンが並びます。アイコンは高 DPI 表示に合わせて拡大・縮小されます。
アドレスバー	選択中のキーのパスを表示します。パスを入力または貼り付けて移動したり、最近使用したパスを選んだりできます。
キーツリー	5 つのルートキーを起点とする階層を表示します。キーを展開するとサブキーが表示されます。
値一覧	選択中のキーにある値の名前、種類、データを表示します。
ステータスバー	ステータス情報と、O&O Software のウェブサイトへのリンクを表示します。

キーツリー

左側のツリーにレジストリの階層が表示されます。展開用の矢印をクリックするか、キーボードの矢印キーでサブキーを表示します。キーを選ぶと右側に値が表示されます。

選択中の枝は、右クリックメニューや **View** メニューからも展開・折りたたみできます。

値一覧

右側には選択中のキーのすべての値が表示されます。

- **既定値**の名前は `(Default)` と表示されます。
- それ以外の値には**名前**、**型**（`REG_SZ`、`REG_DWORD` など）、**データ**があります。

値をダブルクリックするか、選んで Enter を押すと編集できます。右クリックメニューでは **New value**、**Edit...**、**Rename**、**Delete** などを実行できます。

ウィンドウタイトル

選択中のキーや値の短縮パスと製品名が表示されるので、複数のウィンドウをタスクバー上で区別できます。表示形式は **View > Window title** で変更します。外観を参照してください。

キーボードでの操作

主な操作はキーボードからも実行できます。

- Tab でキーツリーと値一覧の間を行き来できます。
- 値を選んで Enter を押すとエディターが開きます。閉じると、編集した値にフォーカスが戻ります。
- 矢印キーで項目を移動します。Home と End はそれぞれ先頭と末尾に移動します。

目的のキーへの移動方法はレジストリ内の移動を参照してください。

レジストリの構造

Windows レジストリは階層構造を持つデータベースです。構造を理解しておくと、目的の場所を見つけやすくなり、誤操作も防げます。

キーと値

キーはフォルダーに似た入れ物で、中に**値**や別のキー（**サブキー**）を格納できます。それぞれの値は 1 つのキーに属します。

- **キー**はレジストリを階層に分けます。1 つのキーには複数の値を格納できます。
- **値**は、キー内の名前と、その名前に対応する文字列、数値、バイナリなどのデータを表します。

各キーには名前のない**既定値**も 1 つあり、値の一覧に `(Default)` と表示されます。

> **キーと値の見分け方**
>
> 左側のフォルダー状のツリーが**キー**です。右側に名前とデータが表示される項目が**値**です。キーと値はそれぞれ別の操作で作成、編集、削除します。

ルートキー

ツリーの最上位には次の 5 つのルートキーがあります。レジストリのパスは、いずれかの名前で始まります。

ルートキー	略称	内容
`HKEY_CLASSES_ROOT`	HKCR	ファイルの関連付けと COM クラスの登録情報。
`HKEY_CURRENT_USER`	HKCU	現在サインインしているユーザーの設定。
`HKEY_LOCAL_MACHINE`	HKLM	コンピューター全体に適用されるシステム設定。
`HKEY_USERS`	HKU	コンピューター上のユーザープロファイルの設定。
`HKEY_CURRENT_CONFIG`	HKCC	現在使用しているハードウェアプロファイル。

ルートキーの下には多数のサブキーがあります。各サブキーもまた、別のサブキーや値を格納できます。

パス

レジストリパスは、ルートキーから目的のキーまでの名前をバックスラッシュで区切って表します。例を次に示します。

```
HKEY_CURRENT_USER\Software\O&O\O&O RegEditor
```

Windows レジストリエディターからコピーした、`Computer\`（または各言語での `My Computer\` に相当する表記）で始まるパスも使えます。先頭の `Computer\` は自動的に取り除かれます。レジストリ内の移動も参照してください。

安全に編集するには

Windows の多くの機能がレジストリを参照します。次の点に注意してください。

- 編集する前に、対象のキーをエクスポートします。
- 変更は一度に 1 か所ずつ行い、内容を記録します。
- ユーザー固有の設定は、可能であれば `HKEY_CURRENT_USER` 配下を編集します。`HKEY_LOCAL_MACHINE` 配下の設定はすべてのユーザーに影響し、変更には管理者権限が必要になる場合があります。

各用語の意味は用語集でも確認できます。

値の種類

O&O RegEditor は Windows のレジストリの各データ型を読み取り、値を作成・編集できます。新しい値を作るときは型を選びます。既存の値を開くと、その型に合ったエディターが表示されます。

サポートする型

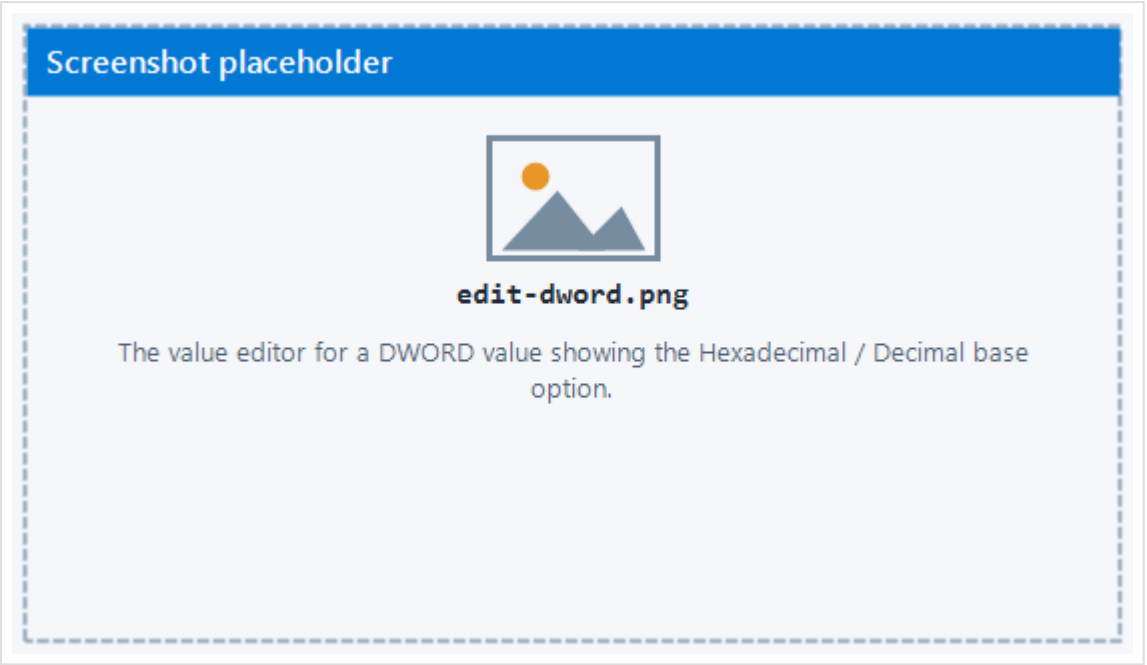
型	内容	主な用途
`REG_SZ`	1 つの文字列。	パス、名前、単純なテキスト設定。
`REG_EXPAND_SZ`	展開可能な文字列。参照時に `%SystemRoot%` などの環境変数をその時点の値に置き換えます。	システムに応じて変化するパス。
`REG_MULTI_SZ`	複数の文字列。1 行に 1 つ入力します。	複数の項目を含むテキスト設定。
`REG_DWORD`	32 ビットの整数。	フラグ、個数、小さな数値の設定。
`REG_QWORD`	64 ビットの整数。	大きな数値。
`REG_BINARY`	生のバイナリデータ。16 進数のバイト列として編集します。	特定の形式を持つデータや、内容を文字で表せない設定。
`REG_NONE`	型を定義しない値。	使用例は少なく、通常は他のソフトウェアが作成します。

使用頻度の低いリソース一覧や完全なリソース記述子の型も、レジストリやインポートする `.reg` ファイルに含まれていれば読み取れます。

数値の入力

数値（`REG_DWORD` または `REG_QWORD`）の編集時には、次の基数を選べます。

- **Hexadecimal**（16 進数）。レジストリでよく使われます。
- **Decimal**（10 進数）。普段使う数値の表記です。
- **Binary**（2 進数）。各ビットを指定します。

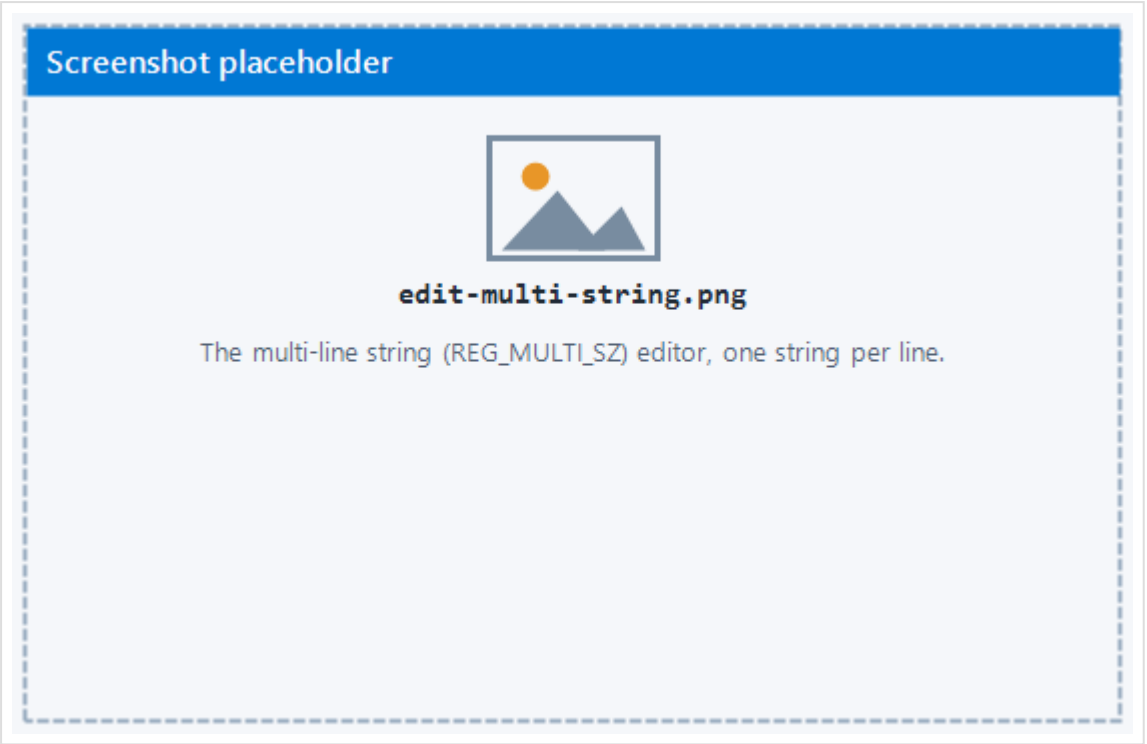


図：数値エディターで 16 進数や 10 進数を選択できます。

意図した数値として入力されるよう、先に基数を選んでください。同じ数値であれば、入力時の基数にかかわらず保存されるデータは同じです。

文字列・複数行文字列・バイナリデータ

- **文字列**（`REG_SZ`、`REG_EXPAND_SZ`）は、そのままテキストとして入力します。
- **複数行文字列**（`REG_MULTI_SZ`）は、下図のエディターで 1 行に 1 項目を入力します。
- **バイナリデータ**（`REG_BINARY`）は、16 進数のバイトが並ぶ編集欄で変更します。大きなバイナリ値も扱えます。



図：複数行文字列のエディターには、1 行に 1 つの文字列を入力します。

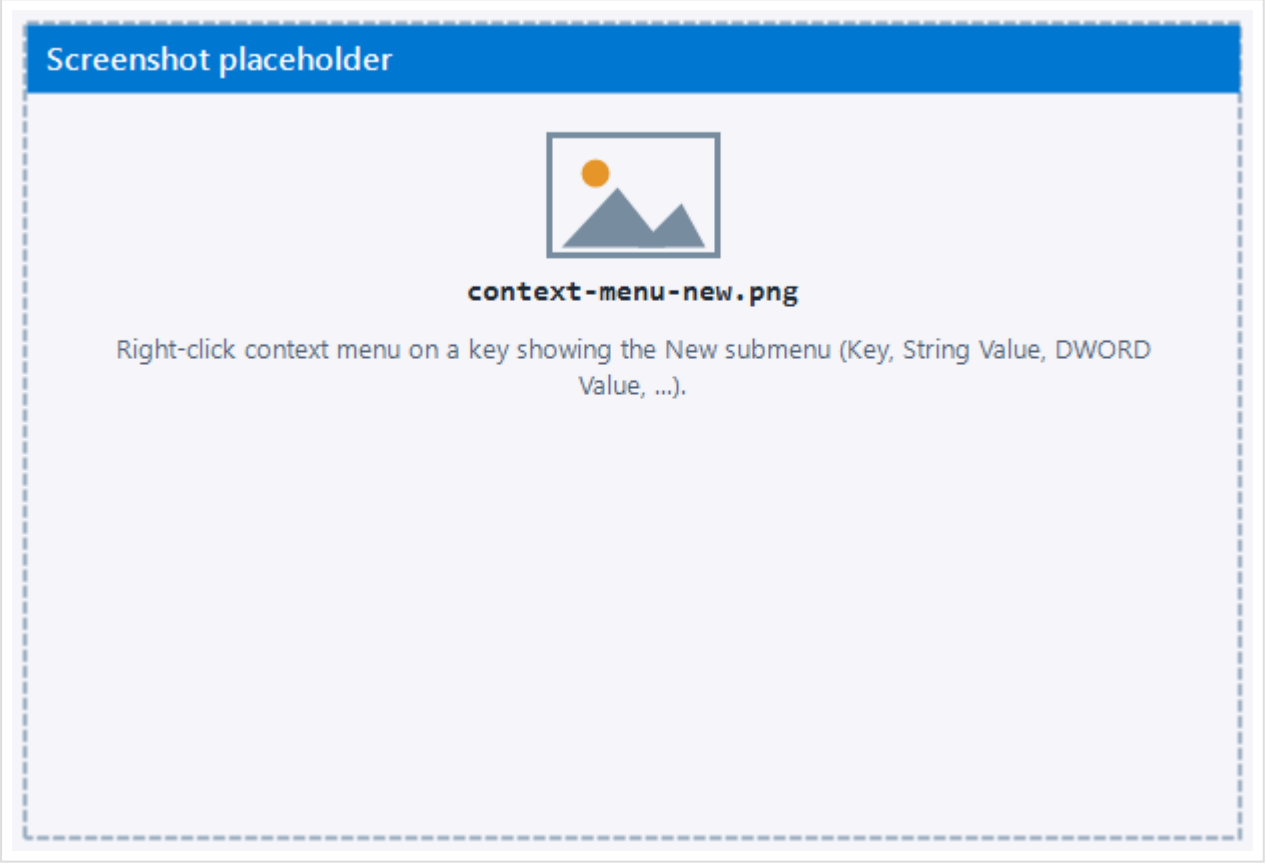
作成と編集の手順は、値の作成と値の編集を参照してください。

キーの作成

新しいキーは、必ず既存のキーのサブキーとして作成します。

手順

1. O&O RegEditor を開きます。
2. キーツリーで、新しいキーを配置する親キーを選びます。
3. 右クリックし、**New key** を選びます。



図：右クリックメニューからサブキーを作成します。

4. 新しいサブキーが挿入され、名前を入力できる状態になります。名前を入力して Enter を押します。

キーは直ちに作成されます。作成直後は空の既定値だけがあるので、必要に応じて値の作成の手順で値を追加します。

名前の規則

- 同じ親キーの下で、同名のサブキーは作れません。
- バックスラッシュ（`\`）はパスの区切りで、キー名には使えません。
- キーを読み取るアプリケーションが指定する名前を正確に入力してください。

名前変更と削除

キーを選び、F2 を押すか、右クリックして **Rename** を選ぶと名前を変更できます。削除は **Delete** です。詳しくは名前変更と削除を参照してください。

> **注意**
>
> キーの削除は、配下のすべてのサブキーと値も削除します。再利用する可能性があれば先にエクスポートしてください。

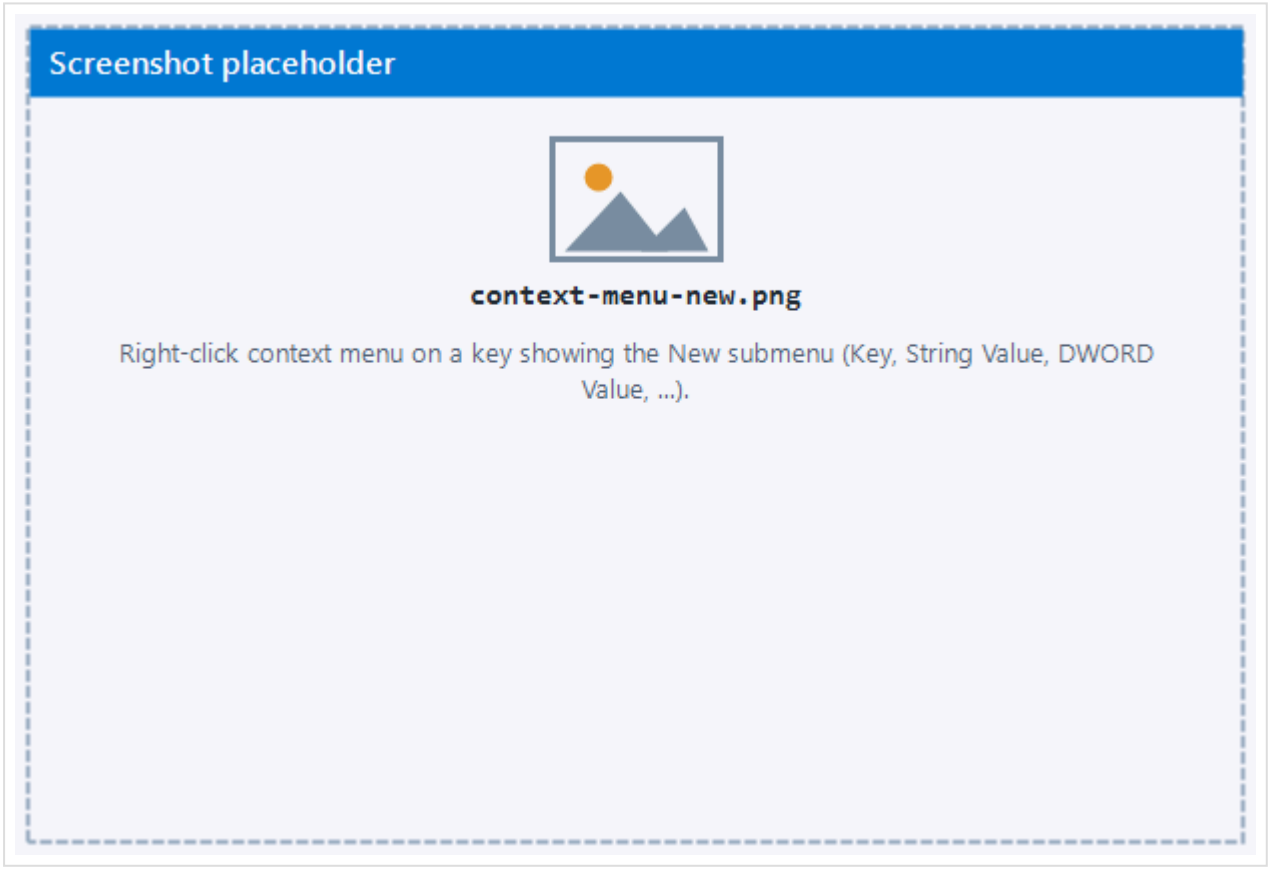
値の作成

1 つのキーには複数の値を格納できます。

手順

1. O&O RegEditor を開きます。
2. 値を追加するキーを選びます。
3. 値一覧またはキーを右クリックし、**New value** から目的の型を選びます。

- **String (SZ)**：文字列（ `REG_SZ` ）
- **Expandable string (EXPAND_SZ)**：展開可能な文字列（ `REG_EXPAND_SZ` ）
- **Multi-line strings (MULTI_SZ)**：複数行文字列（ `REG_MULTI_SZ` ）
- **Numerical value (DWORD)**：32 ビット整数（ `REG_DWORD` ）
- **Numerical value (QWORD, 64-bit)**：64 ビット整数（ `REG_QWORD` ）
- **Binary value (BINARY)**：バイナリ（ `REG_BINARY` ）



図：新しい値の型を選択します。

4. 値一覧に追加された項目に名前を入力し、Enter を押します。
5. 初期データは空または 0 です。ダブルクリックするか Enter を押し、データを入力します。値の編集を参照してください。

適切な型の選び方

読み取るソフトウェアが想定する型を選んでください。型が違うと、設定が無視されることがあります。不明な場合は、同種の既存の値やアプリケーションの説明書を確認します。各型の概要は値の種類を参照してください。

既定値

すべてのキーには、`(Default)` と表示される名前のない既定値が最初からあります。シェルの右クリック操作に対応するコマンドなど、名前のない値が必要なときは、この既定値を編集します。右クリックメニューの操作例を参照してください。

値の編集

値を開くと、その型に合ったエディターが表示されます。

手順

1. O&O RegEditor を開きます。
2. 対象の値を含むキーを選びます。
3. 値一覧で、次のいずれかの方法で値を開きます。

- 値を**ダブルクリック**します。
- 値を選んで Enter を押します。
- 右クリックメニューの **Edit...** を選びます。

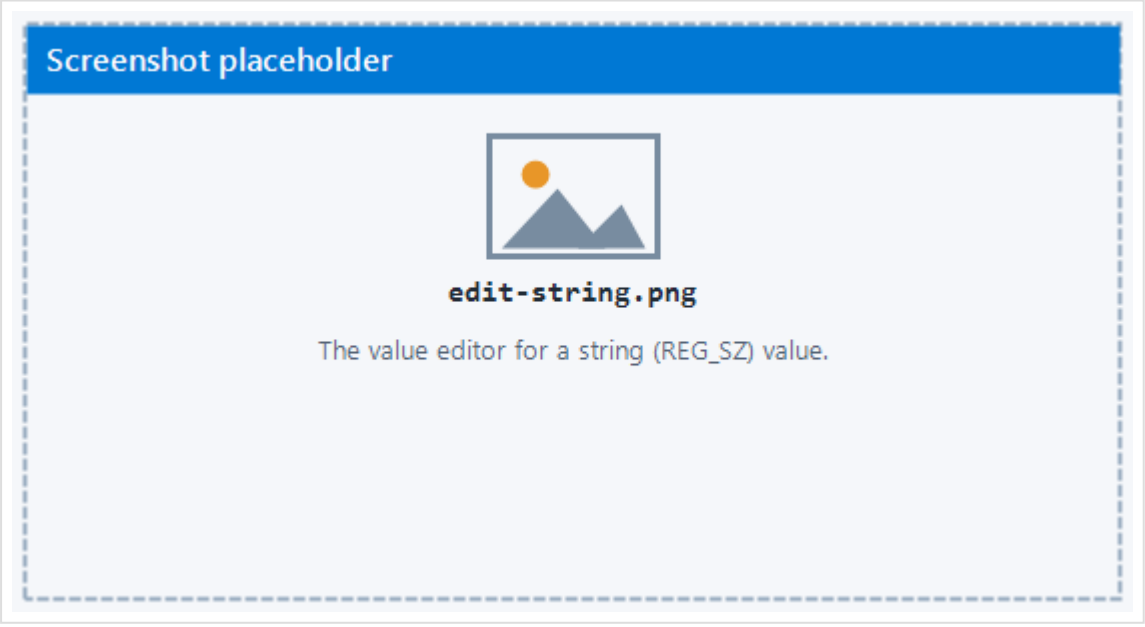
4. 新しいデータを入力して **OK** を選びます。変更を破棄するには **Cancel** を選ぶか Esc を押します。

エディターを閉じると編集した値にフォーカスが戻り、キーボードで操作を続けられます。

型別のエディター

文字列

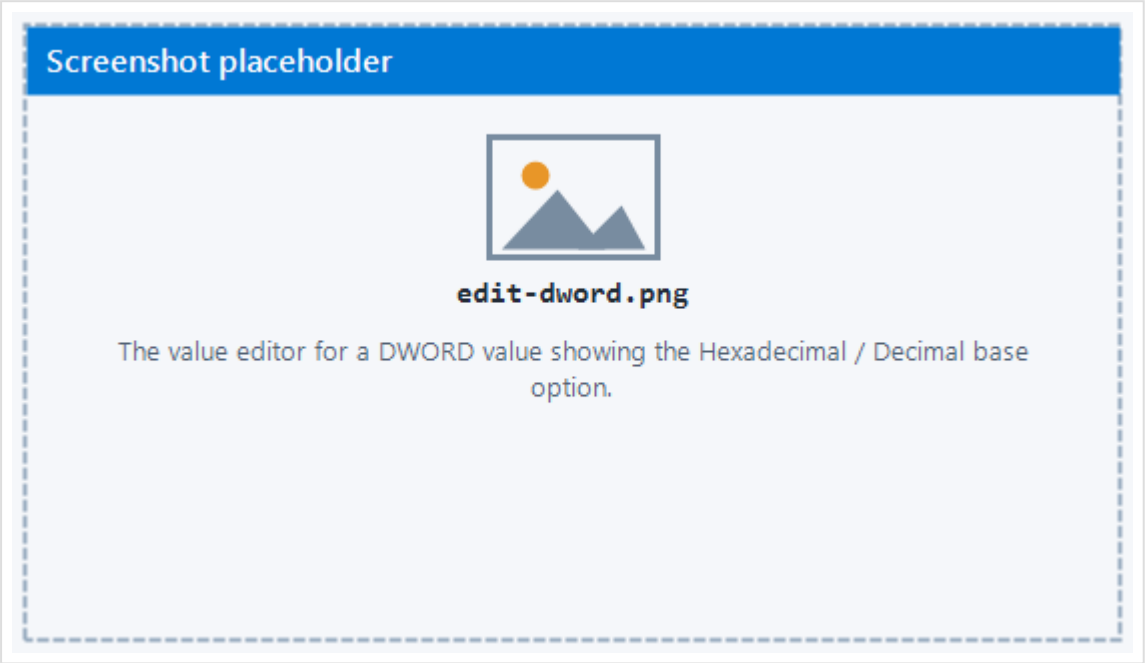
文字列と展開可能な文字列はテキストとして直接入力します。



図：文字列値の編集。

数値

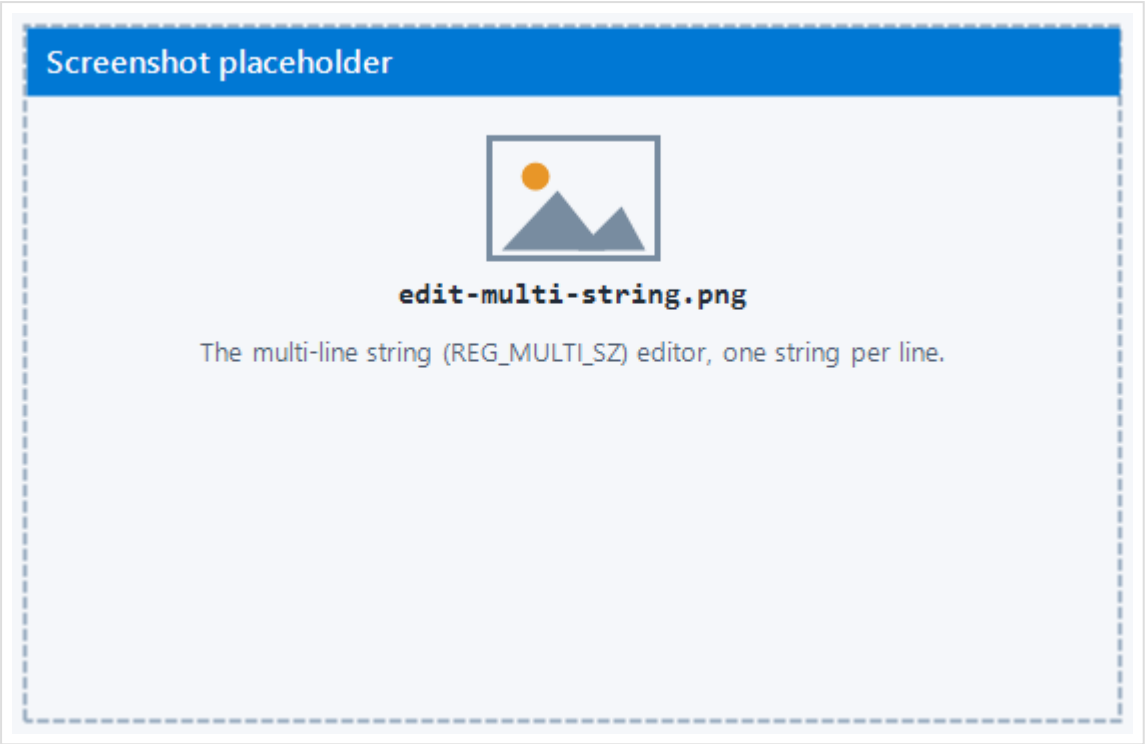
`REG_DWORD`、`REG_QWORD` の値は、入力する前に **Hexadecimal**（16 進数）、**Decimal**（10 進数）、**Binary**（2 進数）から基数を選びます。



図：数値を入力する基数を指定できます。

複数行文字列

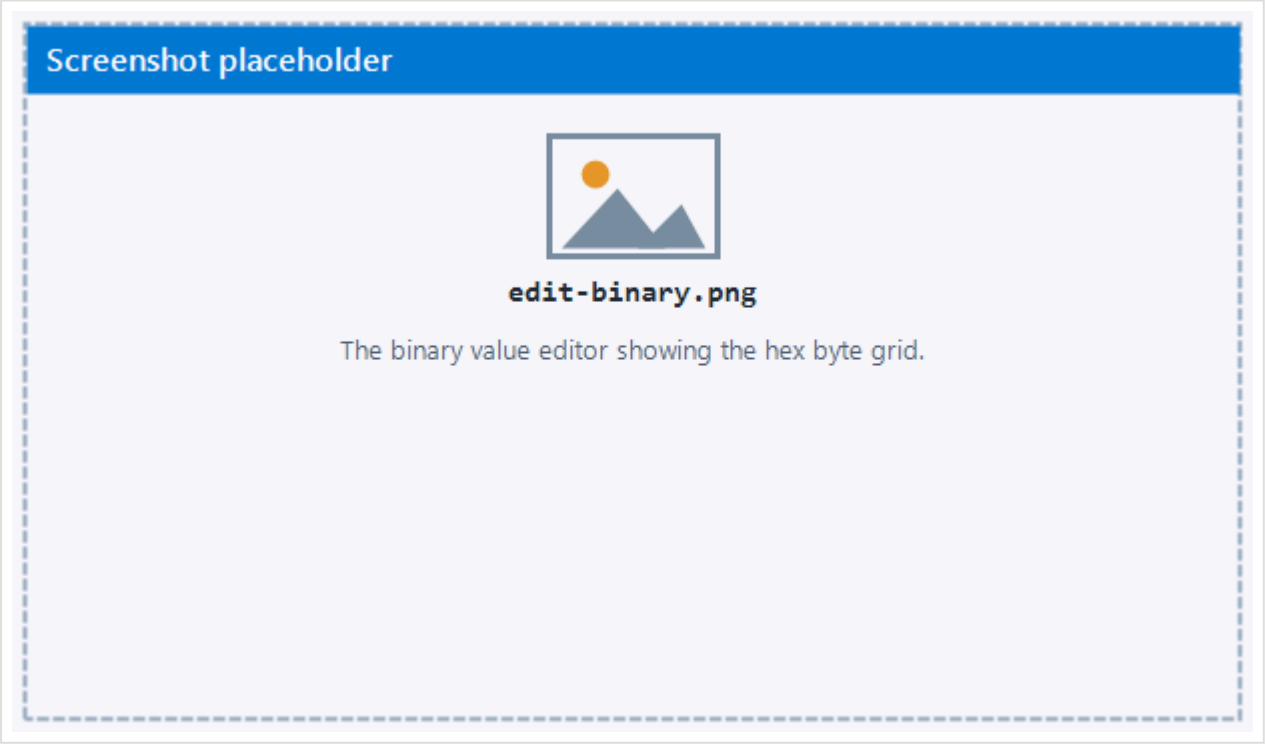
`REG_MULTI_SZ` は 1 行に 1 つの文字列を入力します。行を追加、変更、削除し、内容を確定します。



図：複数行文字列の編集。

バイナリデータ

`REG_BINARY` は 16 進数のバイト列として編集します。データサイズの大きな値にも対応します。



図：バイナリ値を 16 進数のバイト単位で編集します。

編集時のヒント

- ここで変更するのはデータです。**値の名前**を変更するには **Rename** を使います（名前変更と削除を参照）。
- 重要な値は、以前のデータを復元できるように、先にキーをエクスポートしてください。
- 数値はどの基数で入力しても、同じ数であれば保存される値は同じです。

名前変更と削除

キーと値は名前を変更したり、削除したりできます。

名前を変更する

1. キーツリーで対象のキー、または値一覧で対象の値を選びます。
2. F2 を押すか、右クリックして **Rename** を選びます。
3. 新しい名前を入力し、Enter を押します。

キー名を変更しても配下のサブキーと値は残ります。値名を変更しても型とデータは変わりません。

> **既定値の名前について**
>
> すべてのキーにある名前のない `(Default)` は、名前を変更したり項目自体を削除したりできません。データは編集できます。

削除する

1. 対象のキーまたは値を選びます。
2. 右クリックして **Delete** を選ぶか、Delete を押します。
3. 確認メッセージで削除を確定します。

削除する前に

削除は直ちにレジストリに反映されます。

> **キーの中身も削除されます**
>
> キーを削除すると、配下のすべてのサブキーと値も削除されます。データが再び必要になる可能性があれば、先に枝全体を `.reg` ファイルにエクスポートしてください。後から再インポートできます。

削除や名前変更を拒否された場合は、そのキーのアクセス許可を確認してください。アクセス許可の管理を参照してください。

コピーと移動

キーや値を別の場所に複製したり、移動して整理したりできます。Windows 標準のレジストリエディターと異なり、キーを直接移動することもできます。

キーまたは値をコピー・移動する

1. 対象のキーまたは値を選びます。
2. 右クリックメニューで、コピーする場合は **Copy**、移動する場合は **Cut** を選びます。
3. コピー先または移動先のキーを選びます。
4. **Paste** を選んで貼り付けます。

キーをコピーすると、配下のサブキーと値もコピーされます。移動したキーや値は、移動先への配置が完了した後に元の場所から削除されます。

> **操作後の確認**
>
> 何かを削除したり、関係するソフトウェアを再起動したりする前に、元の場所と貼り付け先の両方で結果を確認してください。

パスをクリップボードにコピーする

ツリーでキーを選び、アドレスバーに表示されたパス全体を選択して `Ctrl+C` を押します。文書やスクリプトなどにパスをテキストとして貼り付けられます。キーの内容はコピーされません。

関連項目

- ファイルに取り出すには、`.reg` ファイルへのエクスポートを使用します。
- ファイルに保存されたデータを取り込むにはインポートを使用します。

レジストリ内の移動

目的のキーへの移動方法は、パスがわかっているか、以前に訪れた場所かなどに応じて選べます。

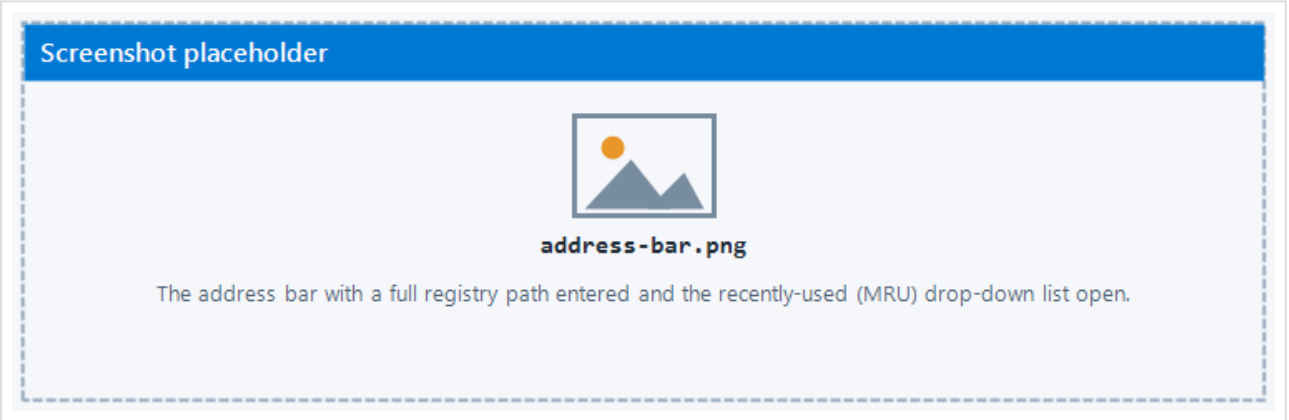
キーツリー

左側にレジストリの階層が表示されます。ルートキーから順にサブキーを展開し、目的のキーを選ぶと右側に値が表示されます。

選択した枝は、右クリックメニューまたは **View** メニューで展開・折りたたみできます。矢印キーでもツリー内を移動できます。

アドレスバー

目的のパスがわかっている場合は、アドレスバーから直接移動できます。



図：アドレスバーの履歴一覧。

1. アドレスバーをクリックするか、メニューからフォーカスを移します。
2. レジストリパスを入力するか貼り付けます。
3. Enter を押して移動します。

O&O RegEditor のパスのほか、Windows レジストリエディターからコピーした、`Computer\` や各言語での `My Computer\` に相当する表記で始まるパスにも対応します。先頭のコンピューター名に相当する部分は自動的に取り除かれます。

最近使ったパス

アドレスバーのドロップダウン一覧にアクセス履歴が残り、項目を選ぶだけでそのパスに移動できます。履歴の件数は変更できます。設定リファレンスを参照してください。

お気に入りとよく使用するキー

繰り返し使う場所は **Favorites** に登録できます。あらかじめ用意された **Frequently used keys** の一覧も利用できます。お気に入りを参照してください。

最後に開いた場所

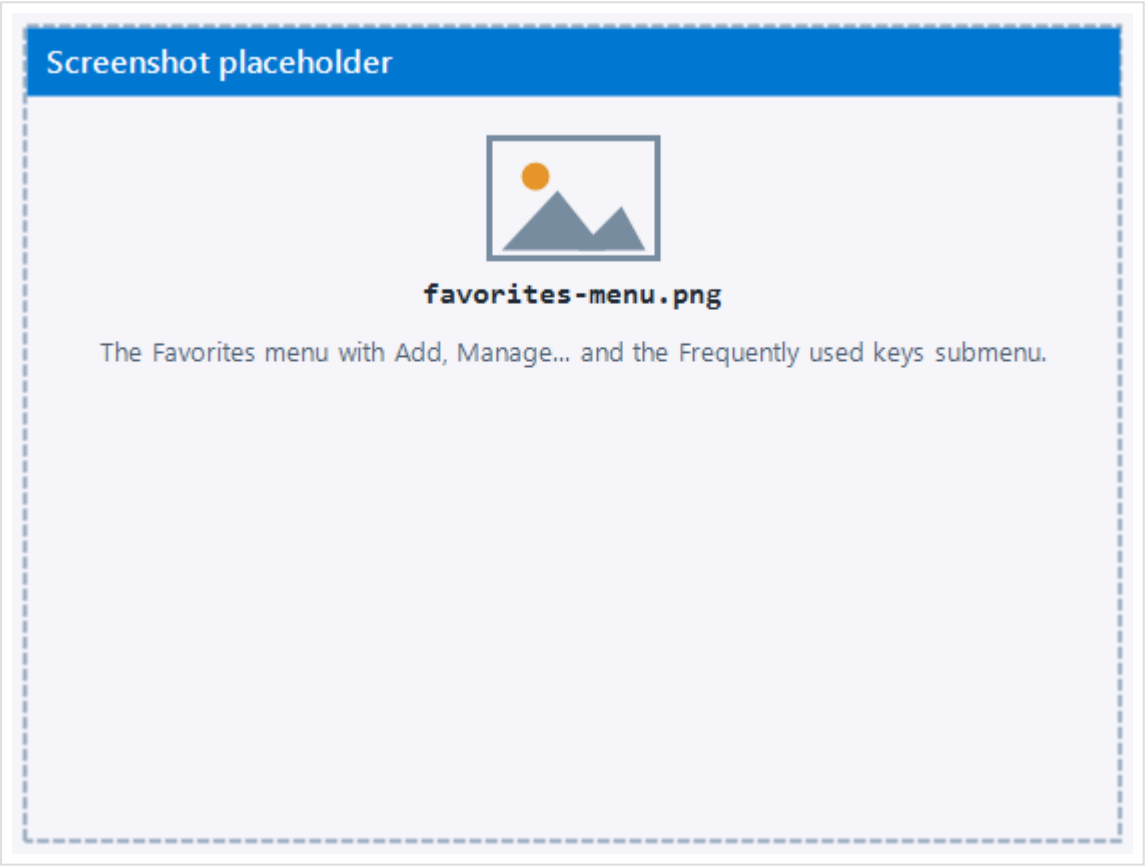
終了時に選択していたキーを記憶します。次に O&O RegEditor を起動するとそのキーが再び表示され、前回の場所から作業を続けられます。

お気に入り

よく使うキーをお気に入りに登録すると、メニューから直接移動できます。

お気に入りに追加する

1. 登録するキーに移動します。
2. **Favorites > Add** を選びます。
3. 必要に応じて名前を変更し、確定します。項目は **Favorites** メニューの末尾に追加されます。



図：よく使用するキーのサブメニューを含む Favorites メニュー。

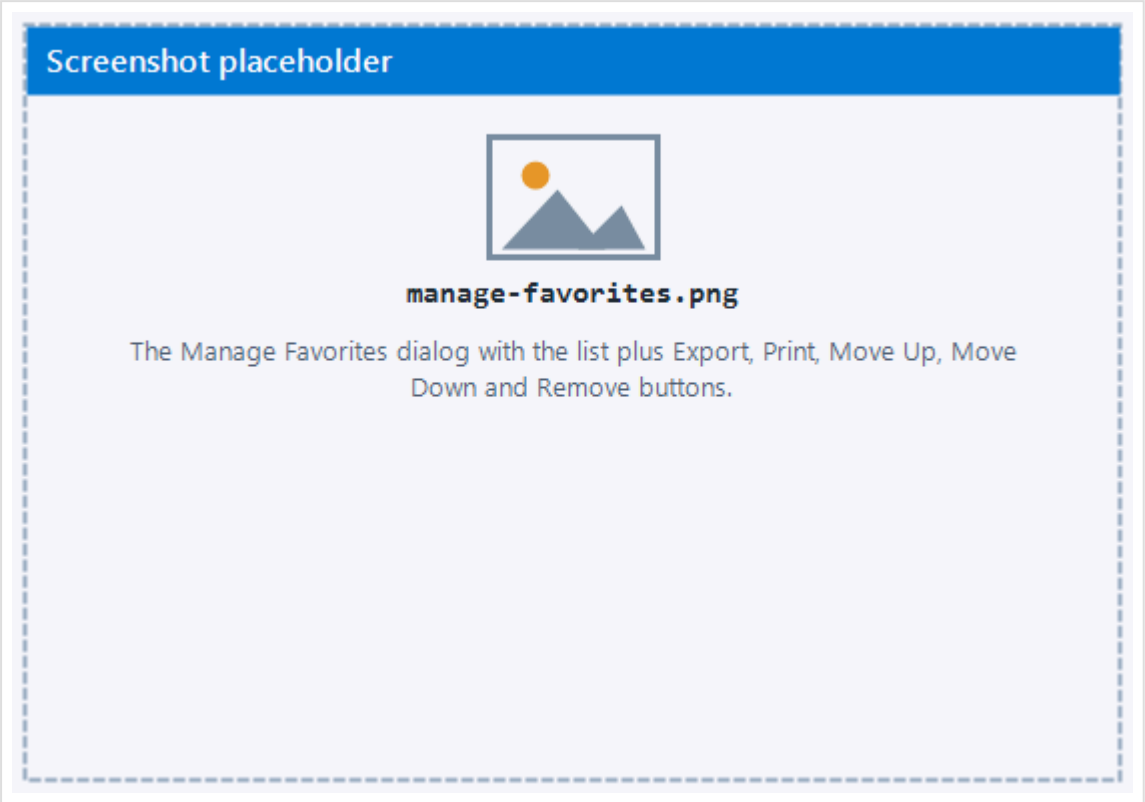
登録した項目を選ぶと、その場所に直接移動します。キーに加え、特定のキー内の値も登録できます。

よく使用するキー

Favorites > Frequently used keys には、よく参照するレジストリの場所が分類されています。パスを入力せずに目的のキーを開けます。

お気に入りを管理する

Favorites > Manage... を選び、**Manage Favorites** ダイアログを開きます。



図：お気に入りの管理画面。

次の操作ができます。

操作	内容
選択	1 つまたは複数のお気に入りを選びます。
Move Up / Move Down	選択項目を上下に移動します。並び順はメニューにも反映されます。
Remove	選んだお気に入りの登録を解除します。
Export...	選んだ登録先のキーを `.reg` ファイルに書き出します。
Print...	選んだ登録先のキーを印刷します。

Move Up と **Move Down** は 1 項目だけを選んだときに使えます。**Export...**、**Print...**、**Remove** は複数選択でも使えます。

複数の枝を一度にエクスポートする

複数のお気に入りを選んで **Export...** を実行すると、関連する枝を 1 つの `.reg` ファイルに保存し、まとめてバックアップできます。

データの検索

O&O RegEditor の検索では、キー名、値名、値のデータをまとめて調べ、一致した項目を一覧で確認できます。

検索を開始する

1. キーツリーで検索を始めるキーを選びます。このキーとその配下が検索の対象になります。
2. ツールバーの **Find** または **Edit > Find...** で検索ペインを開きます。
3. 検索文字列を入力します。
4. 対象と一致条件を選びます（下記参照）。
5. 検索を実行します。



図：検索対象と一致条件を指定する画面。

検索対象を指定する

調べたい項目を有効にします。

項目	検索対象
Keys	キーの名前。
Values	値の名前。
Data	値に格納されたデータ。

複数の項目を組み合わせられます。たとえばキー名を除き、値名とデータだけを検索できます。

一致条件

オプション	効果
Match case	大文字と小文字を区別します。
Find whole words only	単語全体が一致した場合だけ結果に含めます。
Regular expression (RegEx)	入力を正規表現として解釈します。正規表現を参照してください。

Regular expression (RegEx) を有効にすると、**Find whole words only** は選択できなくなります。

検索結果の逐次表示

入力に応じて結果が表示されます。検索をやり直すことなく、文字列を絞り込みながら結果を確認できます。

検索する枝を絞る

対象のキーを選んでから検索すると、その枝に限定され、検索時間や結果を確認する手間を減らせます。
`HKEY_CURRENT_USER` などのルートキーを選ぶと、配下全体を検索します。

関連項目

- 検索パターンの指定方法は正規表現を参照してください。
- 一致した項目の確認とファイルへの保存は検索結果を参照してください。

正規表現

検索ペインで **Regular expression (RegEx)** を有効にすると、入力した文字列を検索パターンとして扱えます。

正規表現を有効にする

1. 検索ペインを開き、パターンを入力します。
2. **Regular expression (RegEx)** を有効にします。
3. 検索を実行します。

正規表現では **Find whole words only** は使えません。**Match case** は適用されます。オフにすると大文字と小文字を区別しません。

構文

O&O RegEditor は ECMAScript の正規表現構文を使用します。主な記号を示します。

パターン	一致するもの
`.`	任意の 1 文字（通常、改行を除く）。
`^` / `$`	文字列の先頭 / 末尾。
`a|b`	`a` または `b`。
`[0-9]`	0〜9 の数字 1 桁。
`\d`、`\w`、`\s`	数字、単語を構成する文字、空白文字。
`*`、`+`、`?`	直前の要素の繰り返し（それぞれ 0 回以上、1 回以上、0 回または 1 回）。
`{2,4}`	直前の要素の 2〜4 回の繰り返し。

記述例

目的	パターン
`Dword` または `Bin` を探す	`Dword|Bin`
データが `StrVal` と完全一致する値を探す	`^StrVal$`
末尾が `.exe` の項目を探す	`\.exe$`
波かっこで囲まれた GUID のような値を探す	`\{[0-9A-Fa-f-]+\}`

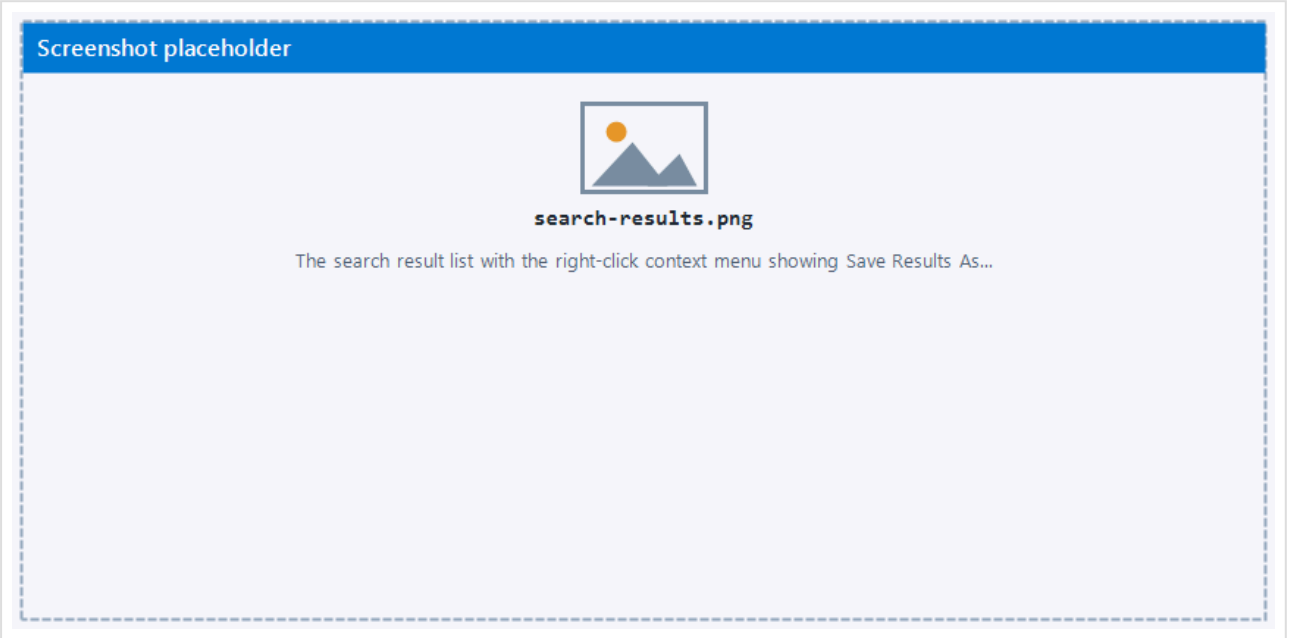
無効なパターン

`[invalid` のようにかっこが閉じておらず、パターンを解析できない場合はエラーが表示されます。検索は実行されないので、パターンを修正して再試行してください。

> **範囲を絞って試す**
>
> 正規表現は予想以上に多数の項目に一致することがあります。まず特定のキーの配下で試すと、結果を確認しながら条件を調整できます。

検索結果

検索が完了すると、一致した項目を結果一覧で確認できます。



図：検索結果を保存する Save Results As... コマンド。

結果一覧の見方

各行にキーのパス、値名、型、データが表示され、一致した場所と内容を確認できます。行をダブルクリックすると、キーツリーと値一覧がその場所に移動し、周囲の項目を確認したり編集したりできます。

結果件数の制限

初期設定では件数に制限はありません。結果が多い場合は、構成ファイルの `SearchMaxResults` で上限を指定できます。`0` は無制限です。設定リファレンスを参照してください。

結果をファイルに保存する

実際にレジストリを変更する前に、結果を保存して後から確認したり記録に残したりできます。

1. 保存する行を選びます。どの行も選んでいない場合は全行が保存されます。
2. 右クリックし、**Save Results As...** を選びます。
3. 保存先、ファイル名、形式を指定します。

保存形式

形式	拡張子	用途
レジストリファイル	`.reg`	再インポートできます。保存時に値をレジストリから読み直し、インポートに必要な内容を揃えます。
テキストファイル	`.txt`	各列をタブで区切った、人が読める形式です。確認や検索に使えます。レジストリへの再インポートには対応しません。

入力した拡張子、またはファイルの種類の選択から保存形式が決まります。

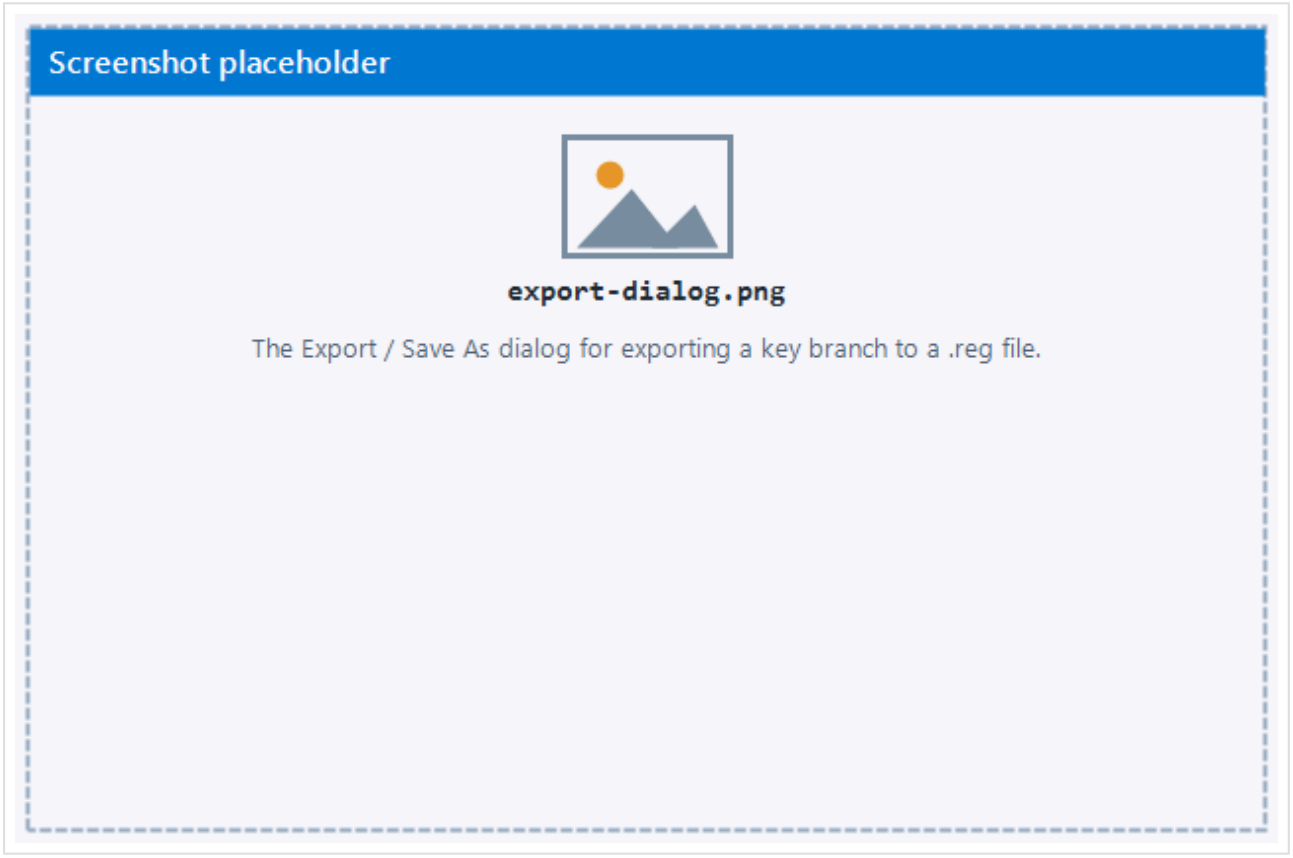
> **変更前の状態を保存する**
>
> 結果を `.reg` ファイルとして保存しておくと、変更前のデータをテキストエディターで確認できます。復元される内容を確かめ、作業前のバックアップとして保管してください。

エクスポート

キーとその内容を `.reg` ファイルに保存できます。Windows 標準のレジストリエディターと互換性があり、共有、保管、再インポートに使えます。

キーをエクスポートする

1. エクスポートするキーを選びます。
2. **File > Export...** を選びます。
3. 保存先とファイル名を指定して確定します。



図：レジストリの枝を .reg ファイルに書き出す画面。

ファイルには選択したキー、配下のすべてのサブキーと値が、標準の `.reg` テキスト形式で保存されます。

編集前にエクスポートする理由

変更が期待どおりにならなかった場合に備え、元のデータを保存しておけます。

- 編集するキーをエクスポートします。
- 必要な変更を行います。
- 結果に問題があれば、保存したファイルをインポートして元のデータを復元します。

その他のエクスポート方法

- **お気に入り：** お気に入りの管理ダイアログでは、選択した複数の登録先の枝を 1 つのファイルにまとめて保存できます。
- **検索結果：** 検索結果一覧の **Save Results As...** で、選んだ結果を `.reg` ファイルに保存できます。

> **補足**
>
> エクスポートはレジストリからデータを読み取ってファイルに書き出す操作です。レジストリの内容は変更されません。

インポート

インポートは `.reg` ファイルを読み取り、キーと値をレジストリに書き込みます。以前エクスポートした枝を復元したり、受け取った `.reg` ファイルを適用したりできます。

ファイルをインポートする

1. **File > Import...** を選びます。
2. 読み込む `.reg` ファイルを選び、確定します。

ファイルに記述されたキーと値が作成または更新されます。同じ場所に同名の値があれば、ファイルのデータで上書きされます。

コマンドラインからインポートする

O&O RegEditor の起動引数に `.reg` ファイルのパスを指定してもインポートできます。書き込む前に確認画面が表示されます。

> **インポートするとレジストリが変更されます**
>
> インポートはレジストリに直接書き込み、既存の値を上書きする場合があります。提供元と内容を確認できるファイルだけを使用してください。内容が不明な場合は、事前にテキストエディターで `.reg` ファイルを開き、対象のキーと値を確認します。

互換性

O&O RegEditor は標準の Windows `.reg` ファイルを読み取れます。次の記述にも対応します。

- **すべての値の型**。`REG_NONE` など、バイナリ形式で表した型も扱えます。
- **コメント行**。セミコロン（`;`）で始まる行は読み飛ばします。
- **引用符で囲んだ文字列**。エスケープした引用符（`\"`）とバックスラッシュ（`\\`）を正しく復元します。末尾がバックスラッシュのパスも扱えます。

有効な Windows レジストリファイル形式である必要があります。解釈できない行がある場合は、エラーで行が示されるので内容を修正できます。

編集前の状態を復元する

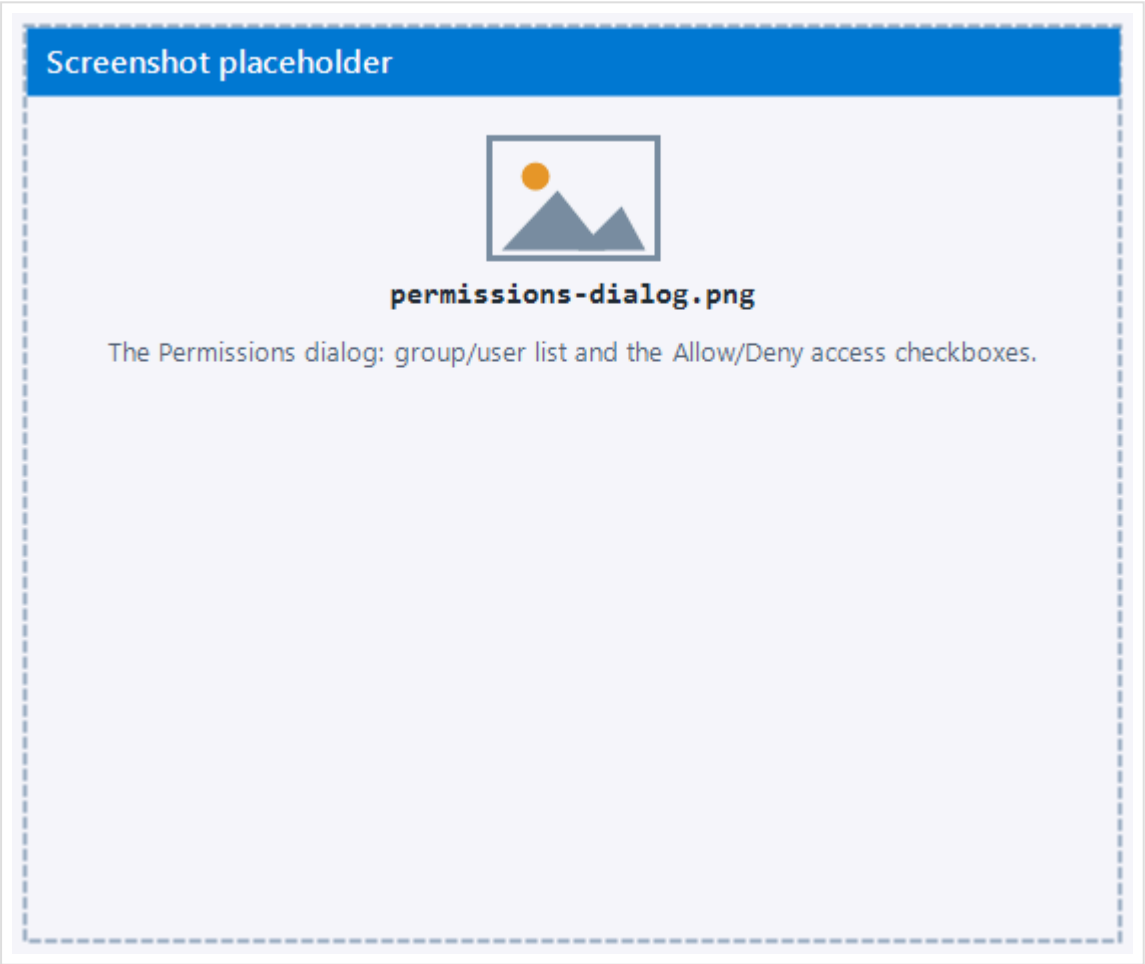
編集前に対象のキーをエクスポートしてあれば、そのファイルをインポートして元のデータを復元できます。エクスポートを参照してください。

アクセス許可の管理

レジストリキーはファイルやフォルダーと同じようにアクセス許可で保護されます。O&O RegEditor から、キーを読み取ったり変更したりできるユーザーとグループを確認・設定できます。

キーのアクセス許可を設定する

1. 対象のキーを選びます。
2. **Edit > Permissions...** を選びます。以降のダイアログは Windows の表示言語に従います。
3. **グループ名またはユーザー名**で対象のユーザーまたはグループを選びます。
4. 下部のアクセス許可一覧で、必要な権限を選びます。



図：選択したキーのアクセス許可。

許可する操作	許可で選ぶ項目
キーを開き、編集し、所有権を取得する	**フル コントロール**
内容を読み取る	**読み取り**
個々の操作を細かく指定する	**詳細設定**（セキュリティの詳細設定を参照）

5. 変更を適用します。

継承

サブキーは親キーのアクセス許可を引き継げます。親キーの設定をサブキーにも適用するには、子オブジェクトに適用可能なアクセス許可エントリの**継承**を有効にし、変更を適用します。

> **アクセス許可は読み取りにも影響します**
>
> 自身に必要な権限を削除すると、そのキーにアクセスできなくなることがあります。システムキーの変更で Windows やアプリケーションが正常に動作しなくなることもあります。設定の意味を確認し、変更内容を記録してください。

管理者権限

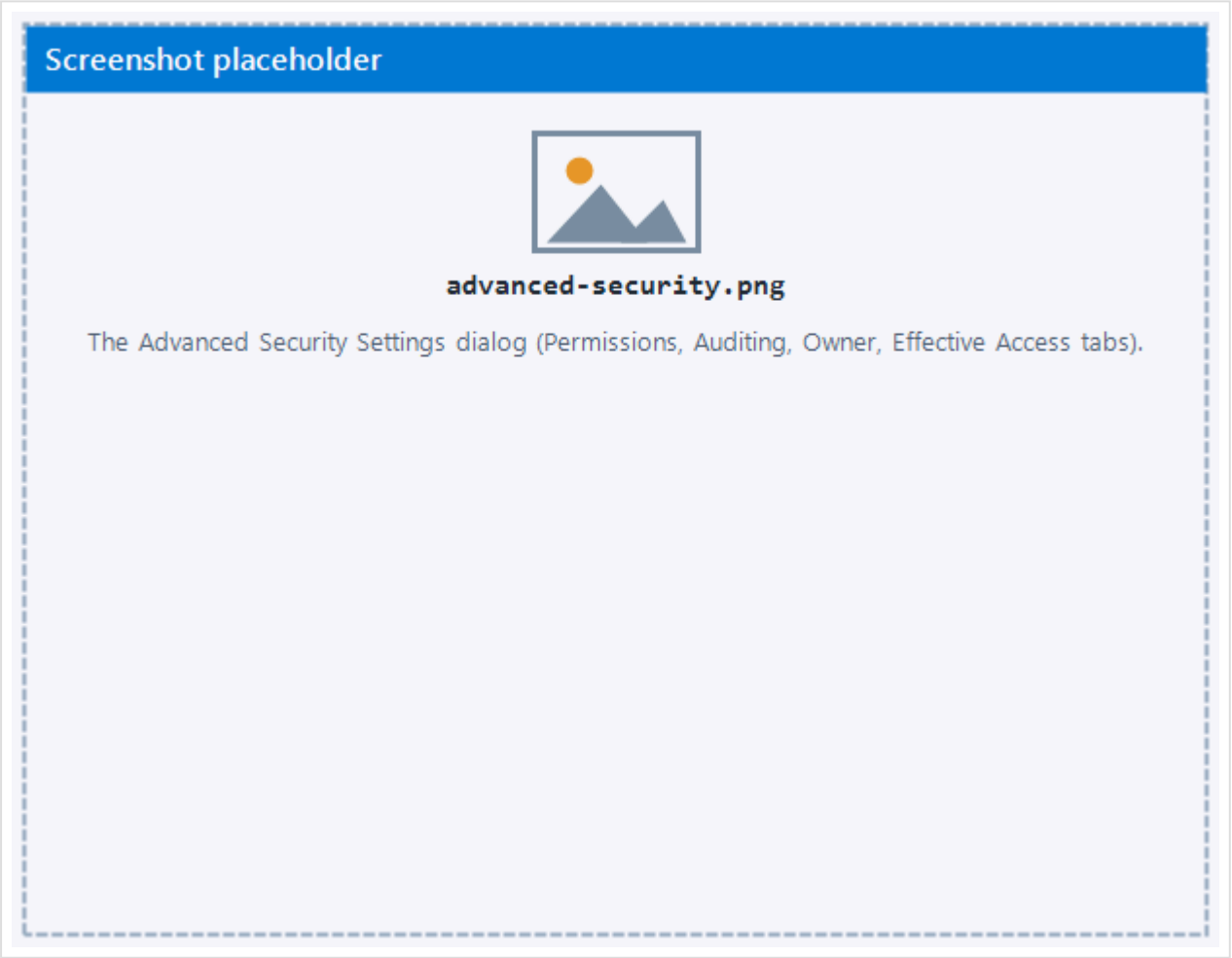
特に `HKEY_LOCAL_MACHINE` 配下のキーのアクセス許可を変更するには、通常は管理者権限が必要です。設定を拒否された場合は、必要な権限を持つアカウントで O&O RegEditor を実行してください。

セキュリティの詳細設定

標準の許可・拒否の設定より細かくアクセスを管理する場合は、対象キーのセキュリティの詳細設定を開きます。

詳細設定を開く

1. 設定するキーを選びます。
2. **Edit > Permissions...** を選びます。アクセス許可ダイアログは Windows の表示言語で開きます。
3. **グループ名またはユーザー名**で対象を選びます。基本的なアクセスレベルについてはアクセス許可の管理を参照してください。
4. **詳細設定**を選び、セキュリティの詳細設定を開きます。



図：キーのセキュリティの詳細設定。

設定できる項目

項目	内容
アクセス許可	ユーザーやグループの詳細なアクセス許可エントリを追加、編集、削除します。
監査	監査対象のユーザーやグループを追加し、キーへのアクセスを記録します。
所有者	現在の所有者を確認します。管理権限の範囲内で所有者を変更できます。
有効なアクセス	継承を含め、対象のユーザーやグループに実際に認められる操作を確認します。

所有権

アクセスが制限されているキーでは、アクセス許可を管理するため、権限のある管理者による所有者の変更が必要になる場合があります。キーの管理主体が変わるため、必要性と担当者を確認してから行ってください。

> **注意**
>
> システムキーの所有者や監査などの詳細設定は、広範囲に影響する場合があります。影響を理解したうえで、まず重要度の低いキーを使って確認してください。

フォルダーの右クリックメニューにコマンドを追加する

フォルダーの右クリックメニューに **Open command prompt here** を追加します。この項目を選ぶと、そのフォルダーを作業ディレクトリとしてコマンドプロンプトが開きます。

この例では、キーへの移動、サブキーの作成、既定値の編集を組み合わせます。

> **作業前のバックアップ**
>
> この例で編集する `HKEY_CLASSES_ROOT` は、すべてのユーザーに影響する場合があります。元に戻せるように、作業前に `HKEY_CLASSES_ROOT\Folder\shell` キーをエクスポートしてください。エクスポートを参照してください。

手順

1. キーツリーで、次のパスに移動します。

```
HKEY_CLASSES_ROOT\Folder\shell
```

2. `shell` の下にキーを作り、例として `OpenCmd` と名付けます。これは内部名です。メニューに表示する名前は次の手順で指定します。キーの作成も参照してください。
3. 作成した `OpenCmd` キーを選び、**既定値**（`(Default)`）を開きます。メニューに表示したい文字列を入力します。例を次に示します。

```
Open command prompt here
```

4. `OpenCmd` の下に、`command` という名前のキーを作ります。
5. `command` を選び、**既定値**に次のコマンドラインを設定します。

```
"C:\Windows\System32\cmd.exe" /k pushd "%V"
```

`%V` は、右クリックしたフォルダーのパスに置き換わります。

6. エクスプローラーでフォルダーを右クリックします。追加した **Open command prompt here** を選ぶと、そのフォルダーでコマンドプロンプトが開きます。

同じ変更を `.reg` ファイルで行う

次の内容をファイルに保存してインポートしても、同じ設定になります。

```
Windows Registry Editor Version 5.00

[HKEY_CLASSES_ROOT\Folder\shell\OpenCmd]
@="Open command prompt here"

[HKEY_CLASSES_ROOT\Folder\shell\OpenCmd\command]
@="\"C:\\Windows\\System32\\cmd.exe\" /k pushd \"%V\""
```

`.reg` ファイル内では、コマンドラインの引用符とバックスラッシュをエスケープしています（`\"` と `\\`）。O&O RegEditor はインポート時に元の文字に戻します。

元に戻す

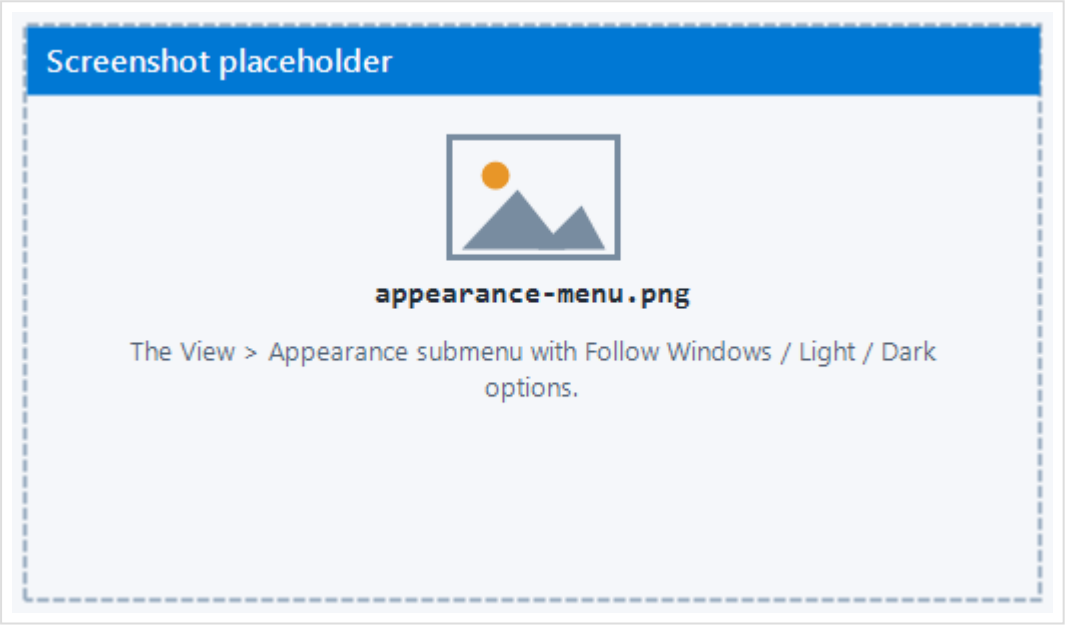
項目を削除するには、`HKEY_CLASSES_ROOT\Folder\shell\OpenCmd` キーを削除します。配下の `command` サブキーも削除されます。必要に応じて事前にエクスポートした内容を再インポートし、元の値を復元します。

外観

O&O RegEditor の画面はダークモードと高 DPI 表示に対応しています。

ダークモード

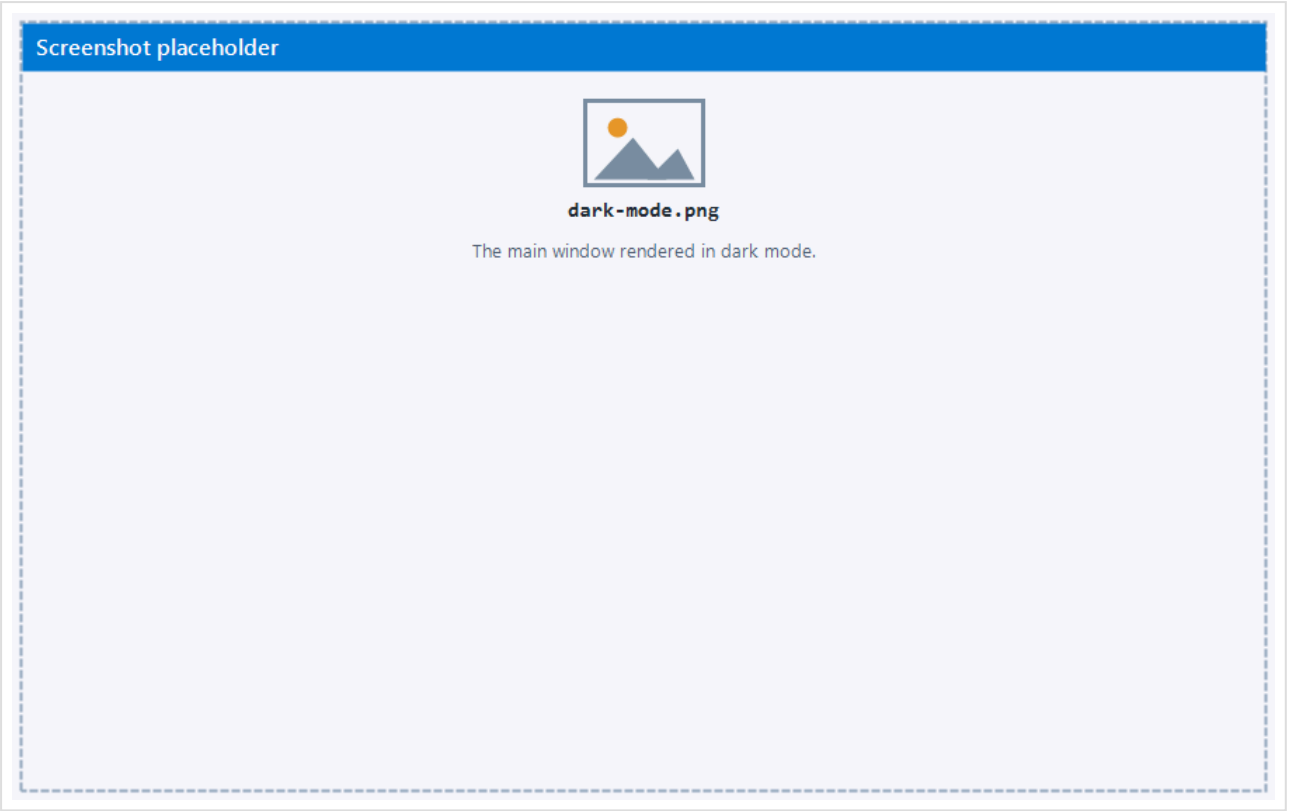
View > Appearance でテーマを選びます。



図：テーマを選択する Appearance サブメニュー。

オプション	効果
Use Windows setting	Windows のライト・ダーク設定に合わせます。Windows で設定を変更すると表示も切り替わります。
Light	常にライトテーマを使用します。
Dark	常にダークテーマを使用します。

テーマはすぐに切り替わり、再起動は不要です。



図：ダークモードを適用した O&O RegEditor。

ダークモードの全機能には Windows 10 バージョン 1809 以降が必要です。それ以前の環境ではライトテーマになります。

高 DPI 表示

高解像度ディスプレイや高い表示倍率でも鮮明に表示できるよう、アイコンとツールバーに複数のサイズが用意されています。

ウィンドウタイトル

タイトルに選択中のキーや値の短縮パスを表示し、複数のウィンドウを区別できます。**View > Window title** で次の項目を設定します。

オプション	効果
Show value first	値を選択したときに、キーのパスより先に値名を表示します。
Reverse key order	キーのパスを構成する名前を逆順に表示します。

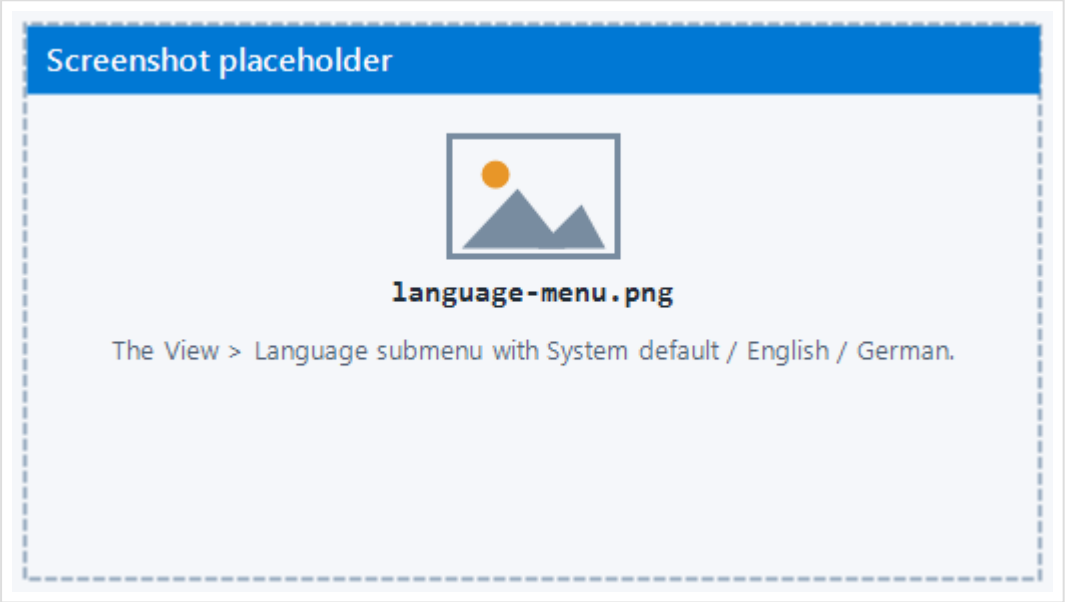
キー名ごとの表示文字数などは構成ファイルで調整できます。設定リファレンスを参照してください。

表示言語

O&O RegEditor の表示言語は英語とドイツ語です。両言語ともプログラムに含まれており、切り替えのための追加インストールは不要です。

表示言語を変更する

View > Language で言語を選びます。



図：画面の言語を指定する Language サブメニュー。

オプション	効果
Use Windows setting	Windows の表示言語が英語またはドイツ語の場合はそれに合わせます。日本語など、それ以外の言語の場合は英語を使用します。
English	常に英語を使用します。
German	常にドイツ語を使用します。

再起動して適用する

言語を選ぶと設定が保存され、再起動の確認が表示されます。再起動すると画面全体に新しい言語が反映されます。選択していたキーの場所や他の設定は保持されます。

選んだ言語は保存され、次回からは自動的に適用されます。

設定リファレンス

多くの設定はメニューから変更できます（外観、表示言語）。ここでは、設定の保存場所と、構成ファイルで調整できる項目を説明します。

保存場所

O&O RegEditor 自体の設定は、レジストリではなく、持ち運び可能な構成ファイルに保存します。

場所	使用条件
プログラムフォルダーの `OORegEditor.cfg`	ファイルがある場合は優先して使用します。プログラムと一緒に設定を持ち運べます。
`%LocalAppData%\OO Software\OO RegEditor\OORegEditor.cfg`	プログラムフォルダーに構成ファイルがない場合に使用する、ユーザー別の保存場所です。

ファイルはセクションと項目を持つ INI 形式に似た UTF-8 テキストです。このバージョンの初回起動時に、旧バージョンの設定がレジストリから自動移行されます。移行元のレジストリエントリはそのまま残ります。

> **Windows PE 環境**
>
> O&O BlueCon などの Windows プレインストール環境で実行したとき、設定はメモリ内にのみ保持され、ディスクには書き込まれません。

設定項目

次の項目は `[Settings]` セクションにあります。多くはメニューから変更できますが、一部はプログラムを閉じてファイルを編集する必要があります。

項目	内容	既定値	対応するメニュー
`Language`	表示言語。`0` は Windows に従う、`1` は英語、`2` はドイツ語。	`0`	**View > Language**
`ThemeMode`	Windows に従う、ライト、ダークのいずれかのテーマ。	Windows に従う	**View > Appearance**
`AddrListMaxItems`	アドレスバーの履歴に残すパスの上限。	`100`	ファイルのみ
`SearchMaxResults`	検索結果の上限。`0` は無制限。	`0`（無制限）	ファイルのみ
`TitleValueBeforeKey`	タイトルにキーのパスより先に値名を表示する。	オン	**View > Window title**
`TitleReverseKeyOrder`	タイトルでパス内のキーの順序を反転する。	オフ	**View > Window title**
`TitleKeyCharLength`	タイトルで選択中のキー名を何文字まで表示するか。	`9`	ファイルのみ
`TitleMiddleKeyCharLength`	タイトルで途中のキー名をそれぞれ何文字まで表示するか。	`2`	ファイルのみ

その他の保存内容

最後に開いたパス、アドレスバーとコンピューターの履歴、お気に入り、ウィンドウやツールバーの配置なども保存されます。使用中に自動管理されるため、通常は手動で編集する必要はありません。

> **ファイルの編集はプログラムを閉じてから**
>
> O&O RegEditor は動作中と終了時に設定を書き込みます。手動で編集するときは先にプログラムを閉じてください。起動中に編集すると変更が上書きされる場合があります。

用語集

用語	意味
`.reg` ファイル	Windows のレジストリファイル形式でキーと値を記述したテキストファイルです。キーとその配下を `.reg` ファイルにエクスポートし、再インポートできます。Windows 標準のレジストリエディターとも互換性があります。
アドレスバー	キーツリー上部の入力欄です。選択中のキーのパスを表示し、パスを入力または貼り付けるとそこに移動します。最近使用したパスも記憶します。
監査	キーへのアクセスを Windows が記録する対象ユーザー、グループ、操作を設定する機能です。詳細なセキュリティ設定で管理します。
バイナリ値（ `REG_BINARY` ）	バイト単位の生データです。16 進数のバイト列として編集します。
枝	特定のキーと、配下のすべてのサブキーおよび値です。エクスポート、検索、削除は枝全体を対象にできます。
構成ファイル	O&O RegEditor の設定を保存する `OORegEditor.cfg` です。実行ファイルと同じフォルダー（ポータブル運用）またはユーザー別の場所に置きます。
既定値	すべてのキーにある名前のない値で、値一覧には `(Default)` と表示されます。名前の変更や項目自体の削除はできません。データを編集できます。
DWORD（ `REG_DWORD` ）	32 ビット整数。フラグ、個数、小さな数値の設定などに使われます。
有効なアクセス	継承とすべてのアクセス許可エントリを加味して、ユーザーまたはグループに実際に適用されるアクセス許可です。
展開可能な文字列（ `REG_EXPAND_SZ` ）	参照時に、 `%SystemRoot%` などの環境変数がその時点の値に置き換わる文字列です。
お気に入り	キーまたは値へのリンクを **Favorites** メニューに保存し、その場所に直接移動する機能です。
よく使用するキー	**Favorites** メニュー内で、あらかじめ用意されたレジストリの場所を選ぶサブメニューです。
ハイブ	レジストリのキーと値をひとまとめに管理・保存する単位です。ツリーの起点には 5 つのルートキー（ `HKEY_CLASSES_ROOT` 、 `HKEY_CURRENT_USER` 、 `HKEY_LOCAL_MACHINE` 、 `HKEY_USERS` 、 `HKEY_CURRENT_CONFIG` ）があります。ルートキーの下に複数のハイブが読み込まれることもあります。

用語	意味
継承	親キーのアクセス許可エントリをサブキーが引き継ぐ仕組みです。
キー	フォルダーに相当するレジストリの入れ物で、値とサブキーを格納します。
キーツリー	メインウィンドウ左側にキーの階層を表示する領域です。
メインキー	「ルートキー」を参照してください。
複数行文字列（`REG_MULTI_SZ`）	1 行に 1 項目ずつ編集する文字列の一覧です。
所有者	キーのアクセス許可を変更できるアカウントです。詳細なセキュリティ設定で確認できます。権限のある管理者は所有者を変更できます。
パス	ルートキーから目的のキーまでの名前をバックスラッシュで区切ったものです。例：`HKEY_CURRENT_USER\Software`。
アクセス許可	キーを読み取ったり変更したりできるユーザーとグループを定める規則です。
QWORD（`REG_QWORD`）	大きな数値を格納するための 64 ビット整数です。
正規表現（RegEx）	ECMAScript 構文による検索パターンです（例：`\.exe$`）。検索ペインの **Regular expression (RegEx)** で有効にします。
結果一覧	検索で一致した項目について、キーのパス、値名、型、データを表示します。
ルートキー	レジストリツリーの最上位に表示され、各パスの起点となるキーです。「ハイブ」も参照してください。
文字列（`REG_SZ`）	1 つの文字列。パス、名前、単純なテキスト設定に使われます。
サブキー	別のキーの下にあるキーです。
値	キー内の項目。名前を付けて、文字列、数値、バイナリなど所定の型のデータを格納します。
値一覧	メインウィンドウの右側に、選択したキーの値を名前、型、データとともに表示します。
値の型	`REG_SZ`、`REG_DWORD` などのデータ型。使用するエディターとデータの解釈を決めます。値の種類を参照してください。
Windows PE	Windows プレインストール環境です。O&O BlueCon など、この環境でも O&O RegEditor を実行できます。設定はメモリにのみ保持されます。

トラブルシューティング

該当する症状を選び、考えられる原因と対処方法を確認してください。

変更または削除を拒否される

原因： キーを変更するための権限がありません。`HKEY_LOCAL_MACHINE` などの保護された領域ではよく起こります。

1. O&O RegEditor を管理者として起動します。
2. キーのアクセス許可を確認し、必要かつ許可された範囲で調整します。アクセス許可の管理を参照してください。

設定を変更しても効果がない

原因： 値の名前や型が違うか、設定を読み取るアプリケーションがまだ再読み込みしていません。

1. アプリケーションが要求する**正確な名前と型**であることを確認します。型が違うと設定が無視されることがあります。値の種類を参照してください。
2. 一部の設定はアプリケーションや Windows の起動時にだけ読み取られます。アプリを再起動するか、Windows にサインインし直すか、コンピューターを再起動します。

`.reg` ファイルのインポートでエラーが出る

原因： Windows レジストリファイルとして無効な形式になっているか、行が破損しています。

1. エラーに表示された行をテキストエディターで開いて確認します。
2. ファイルが実際に `.reg` ファイルであり、編集によって構造が壊れていないか確認します。

インポートを参照してください。

ダークモードが反映されない

原因： ダークモードの完全なサポートには Windows 10 バージョン 1809 以降が必要です。それ以前の環境ではライトテーマになります。外観を参照してください。

表示言語が切り替わらない

原因： 言語の変更が画面全体に反映されるのは再起動後です。再起動の確認に同意するか、O&O RegEditor を閉じて開き直します。表示言語を参照してください。

検索結果が多すぎる・少なすぎる

- **多すぎる場合：** より下位のキーを選んで対象を絞り、**Find whole words only** または **Match case** を有効にします。データの検索を参照してください。
- **少なすぎる場合：** **Keys**、**Values**、**Data** の対象を確認し、**Match case** によって必要な結果が除外されていないか確認します。

構成ファイルの変更が残らない

原因： O&O RegEditor の実行中にファイルを編集した可能性があります。プログラムは実行中や終了時に設定を保存するため、手動の変更が上書きされる場合があります。

プログラムを閉じてから構成ファイルを編集してください。設定リファレンスを参照してください。

解決しない場合

O&O Software サポートにお問い合わせください。サポートと O&O の関連情報を参照してください。

よくある質問

全般

O&O RegEditor とは何ですか？

Windows 用の無料のレジストリエディターです。キーツリーと値一覧からレジストリを操作でき、拡張検索、お気に入り、アドレスバーからの移動、ダークモード、高 DPI 表示に対応しています。

Windows 標準のレジストリエディターとの違いは何ですか？

使い慣れた配置のまま、検索結果の一覧と検索中の逐次表示、正規表現や単語単位の検索、結果のファイル保存、キーや値のコピー・移動、お気に入り管理、履歴付きアドレスバーを利用できます。ダークモード、高 DPI に対応したアイコン、表示言語の切り替えも備えています。

レジストリを編集しても安全ですか？

設定によっては Windows の安定性に影響します。データをバックアップし、変更するキーをエクスポートしてください。変更の意味を確かめたうえで、1 か所ずつ編集します。

キーと値

キーと値はどう違いますか？

キーはフォルダーに似た入れ物で、値やサブキーを格納します。**値**には、キー内で名前を付けて文字列、数値、バイナリなどのデータを保存します。レジストリの構造を参照してください。

どの型の値を使えばよいですか？

設定を読み取るソフトウェアの指定に従ってください。通常は文字列に `REG_SZ`、小さな整数に `REG_DWORD`、大きな整数に `REG_QWORD`、文字列の一覧に `REG_MULTI_SZ`、バイナリデータに `REG_BINARY` を使います。値の種類を参照してください。

16 進数の代わりに 10 進数で入力できますか？

はい。数値エディターでは 16 進数、10 進数、2 進数を選べます。入力の基数にかかわらず、同じ数は同じ値として保存されます。

検索

どの範囲が検索されますか？

ツリーで選択したキーとその配下が対象です。**Keys**、**Values**、**Data** で指定した箇所を調べます。範囲を絞るには、目的のサブキーを選んでから検索します。

正規表現は使えますか？

はい。検索ペインの **Regular expression (RegEx)** を有効にします。構文は ECMAScript に準拠します。正規表現を参照してください。

検索結果は保存できますか？

はい。結果一覧で **Save Results As...** を選ぶと、再インポート可能な `.reg` ファイル、またはタブ区切りの `.txt` ファイルに保存できます。検索結果を参照してください。

ファイル

エクスポートしたファイルは Windows と互換性がありますか？

はい。エクスポートした `.reg` ファイルは Windows 標準のレジストリファイル形式です。Windows のレジストリエディターと O&O RegEditor のどちらでもインポートできます。

変更を元に戻すにはどうすればよいですか？

編集前にキーをエクスポートしておいた場合は、そのファイルをインポートして元のデータを復元できます。インポートを参照してください。

設定

設定はどこに保存されますか？

ポータブル構成ファイル（`OORegEditor.cfg`）に保存します。保存場所はプログラムと同じフォルダー、または `%LocalAppData%` の下です。以前のバージョンの設定は自動的に移行します。設定リファレンスを参照してください。

ポータブルアプリとして使えますか？

はい。実行ファイルと同じフォルダーに `OORegEditor.cfg` を置くと、ユーザー別の構成ファイルよりも優先して使われます。

トラブルシューティング

変更を拒否されたときは何を確認すればよいですか？

そのキーを変更する権限があるか確認してください。必要に応じて管理者として起動し、キーのアクセス許可を確認します。トラブルシューティングを参照してください。

ダークモードが利用できないのはなぜですか？

完全なダークモードには Windows 10 バージョン 1809 以降が必要です。それ以前の環境ではライトテーマを使います。

サポートと O&O の関連情報

O&O RegEditor やその他の O&O 製品に関するご質問は、O&O Software サポートまでお問い合わせください。

問い合わせ前の準備

確認を円滑に進めるため、次の情報をご用意ください。

- お使いの O&O RegEditor のバージョン。
- Windows のバージョンとエディション。
- 行った操作、期待した結果、実際の結果。
- 表示されたエラーメッセージの正確な文面。

問い合わせ先

窓口	アドレス
サポート	https://www.oo-software.com/en/support
ウェブサイト	https://www.oo-software.com

このオンラインヘルプが O&O RegEditor のユーザーガイドです。はじめにから読み進めるか、ページ上部の検索欄から目的の項目を探してください。

その他の O&O 製品

O&O RegEditor は無料です。O&O Software はバックアップ、復旧、ストレージの最適化、Windows 管理向けに次の製品も提供しています。

製品	用途
O&O DiskImage	ドライブやシステム全体のバックアップと復元。
O&O Defrag	PC とサーバーのストレージの最適化。
O&O DiskRecovery	削除したファイルや、破損したファイルシステムからのデータ復旧。
O&O SafeErase	ファイルや空き領域に残るデータを復元できないように消去。
O&O ShutUp10	Windows のプライバシー設定の管理。
O&O Syspectr	PC とサーバーのリモート監視・管理。
O&O BlueCon	起動しなくなった Windows の管理と修復。

ダウンロード、製品の説明、ライセンス情報は O&O 製品一覧をご覧ください。